

1949年（中華人民共和国の創設）から1976年（CCP議長の毛沢東の死）までの中国の期間は、一般に毛沢東派中国とレッドチャイナとして知られています。

中華人民共和国の歴史は、歴史家によって毛沢東時代と毛沢東後の時代に明確に分けられることがよくあります。

国のマオ時代は、1949年10月1日の人民共和国の建国から、鄧小平の権力の統合と政策の逆転まで続いた。

1978年12月22日の第11回党大会の第3回プレナム。毛沢東時代は、土地改革、大飛躍、文化革命など、1950年代初頭からの毛沢東の社会運動に焦点を当てています。

中華人民共和国（PRC）の創設は、1949年10月1日、北京の天安門広場で午後3時に、中国共産党の毛沢東委員長によって正式に宣言されました。

新国家の政府である中国中央人民政府の設立は、創立式典での布告演説の中で公式に宣言されました。

創立式では軍事パレードが行われました。

中華人民共和国は、1世紀にわたる外国の侵略と内戦によって荒廃した土地に設立されました。

1949年から1959年にかけて、都市部と農村部の両方、および農業と産業の両方が大幅な成長を遂げました。

毛沢東政府は農地改革を実施し、集団化を開始し、労働改造所システムを実施しました。

経済的には、国は1953年から1957年までの最初の5カ年計画で5カ年計画のソビエトモデルをフォローアップしました。

国は生産手段が民間から公的機関に移され、1955年の産業では、国はソビエト連邦の経済と同様の方法で経済を支配していました。

朝鮮戦争における中国の役割は、参加者ごとに大きく異なる方法で評価されてきました。

設立直後、新しく生まれた中華人民共和国は最初の国際紛争に巻き込まれました。

1950年6月25日、金日成の北朝鮮軍は38度線を越えて韓国に侵攻し、最終的には韓国南東部の釜山橋頭堡まで前進した。

国連軍は南部側で戦争に参加し、アメリカのダグラス・マッカーサー将軍は共産主義の撤退を余儀なくされ、1950年のクリスマスまでに戦争を終わらせることを提案した。

ソビエト連邦そして中国は、国連（そしてその結果としてアメリカ）の勝利を米国に対する主要な政治的勝利と見なしました。

これは冷戦の初めには危険であると見なされていました。しかし、スターリンは米国との戦争に行くことを望んでおらず、中国に平壤の政権を救う責任を残した。

これまで、トルーマン政権は蔣介石政権の腐敗に完全にうんざりしており、単に中国を認めることを検討していた。

6月27日、共産主義者による島への侵入を防ぎ、本土の再征服の試みを防ぐために、米国第7艦隊が台湾海峡に派遣されました。

一方、中国は、米国が支援する韓国を国境で受け入れることはないと警告した。

国連軍がソウルを解放した後9月、北京は、韓国軍は北朝鮮に侵入できるが、アメリカ軍は侵入できないと述べて対抗した。

マッカーサーはこれを無視し、韓国軍は弱すぎて自力で攻撃できないと信じていた。

平壤が10月に陥落した後、国連軍は戦略的に敏感な鴨緑江地域に接近した。

中国は、人民志願軍として知られるようになった南に軍隊の波を送り、人民解放軍との関係を断ち切ることで対応した。

中国軍は装備が不十分でしたが、内戦と日本との紛争の多くの退役軍人を収容していました。

さらに、それは膨大な人的資源を持っていました。

米国は軍事力の頂点に向かっており、歴史家たちは毛沢東の戦争への参加が中国を軽視されるべきではない新しい力として主張したと主張しているとして知られています。

抵抗アメリカ、中国での韓国援助キャンペーン、中国軍の最初の大規模な攻撃は10月に押し戻されましたが、1950年のクリスマスまでに、彭徳懐將軍の指揮下にある「人民志願軍」は国連に撤退を余儀なくされました。

戦争は中国側にとって非常に費用がかかり、単なる「ボランティア」以上のものが動員され、現代戦の経験の欠如と現代の軍事技術の欠如のために、中国の犠牲者は国連の犠牲者をはるかに上回っていました。1951年4月11日、米国第7艦隊駆逐艦がスワトウ港（汕頭）の近くに接近しました。

中国の南西海岸で、駆逐艦が敵対的な火事を開始することによって紛争を拡大することなく、駆逐艦がその地域を離れる前に、約5時間、駆逐艦と対峙して取り囲むために40隻以上の武装したジャンクの艦隊を送るように中国を促しました。

国連の休戦協定を拒否し、1953年7月27日に休戦協定が締結されるまで、両陣営は38度線の両側で断続的に戦った。

朝鮮戦争は米国との正常な関係の可能性を終わらせた。

一方、中国軍は1950年10月にチベットに侵攻し、併合しました。

チベットは過去数世紀に名目上皇帝の支配下にありましたが、1912年に独立を宣言しました。

毛沢東の指示の下、中国は1964年に核開発計画であるプロジェクト596で最初の原子爆弾を製造しました。

核実験に成功したのは5番目の国でした。

朝鮮戦争は、特に内戦に続いて、中国にとって莫大な費用がかかり、戦後の復興を遅らせました。

その結果、毛沢東は国が「東に傾く」と宣言しました。これは、ソビエト連邦と共産圏がその主要な同盟国になることを意味します。

1949年10月に中国が設立されてから3か月後、毛沢東とその代表団はモスクワを訪れました。

彼らはスターリンによって暖かく受け取られませんでした、彼らが本当にマルクス・レーニン主義者であり、単に中国の民族主義者のグループではないかどうか疑問に思った。彼はまた、蔣介石政権を認めており、さらに彼の直接の支配下でない共産主義運動を信用していなかった。真央との会談後、ソビエトの指導者は「真央とはどのような人なのか。農民を巻き込んだ革命の考えはあるが、労働者は巻き込んでいないようだ」と述べた。やがて、欲求不満の毛沢東は家に帰る準備ができたが、周恩来は正式な合意なしに去ることを拒否した。

このようにして、中ソ友好同盟条約が調印され、中国人はついに1950年2月に出国した。

Hua-yu Liによると、1953年に1948年から1953年にかけて、マオと中国の経済的スターリン化に書いたマオは、

ソビエト連邦共産党の歴史（ボルシェビク）の熱烈な報告に感銘されました。

ソビエト連邦の社会的および経済的進歩は、「新民主主義」のリベラルな経済プログラムを放棄し、ソビエトモデルに基づいて社会主義を構築するプログラムである「社会主義移行の一般的な線」を制定した。

伝えられるところによると、彼はスターリンとソビエト連邦との個人的および国家的な対立に部分的に感動した。

ソビエト連邦は1950年代にかなりの経済援助と訓練を提供しました。

多くの中国人学生がモスクワに留学しました。工場やその他のインフラプロジェクトはすべてソビエトの設計に基づいていました。

中国は産業がほとんど確立されていない農業国だったからです。

1953年、毛沢東はインドネシア大使に農産物以外の輸出はほとんどないと語った。

いくつかの中ソ対立企業が設立されたが、毛沢東はこれらが中国の主権に影響を与えると考え、1954年に静かに解散した。

1956年までに、マオは州の日々の運営に飽きてきており、官僚主義と官僚主義の拡大についても心配していました。

その年の第8回党大会は、社会主義が多かれ少なかれ確立されたので、次の数年は休息と統合に専念すると宣言した。

1957年2月、毛沢東は彼の最も有名な演説の1つに、「百の花を咲かせ、百の思想の学校を争わせなさい」と述べました。

百花斉放百花キャンペーンは、公開討論を通じて社会主義イデオロギーを推進する方法としてCPCによって推進されましたが、多くの人々が共産党に対する公然たる軽蔑を表明するための招待状と見なしました。

多くの人が一党制の支配に反対を表明し始めました。

毛沢東は徹底的にショックを受け、これに終止符を打ち、反右派闘争を開始しました。

何十人もの知識人と一般労働者が粛清、投獄、または失踪した。

多くは1970年代まで「リハビリ」されていませんでした。

集団化を含むマオの社会的および文化的プログラムは、1950年代初頭に最も人気がありました。しかし、中国と新しいソビエト指導者ニキータ・フルシチョフとの緊張した関係と、中国とソビエトの共産主義学校の間の新たな矛盾中国の経済システム全体を改革するための斬新で急進的な推進力を植え付けました。この分裂は、1953年にスターリンが亡くなった後、新しいソビエトの指導者ニキータ・フルシチョフが彼を非難したときに発展しました。

1956年の「秘密のスピーチ」は共産主義の世界を驚かせました。中国は非スターリン化を拒否し、実際、その年のメーデーの祝賀会で大きなスターリンの肖像画を展示しました。

真央は、いくつかの欠点にもかかわらず、スターリンは基本的に善良で善意のあるマルクス主義者であったと宣言した。

彼は、ソビエトが中国を対等なパートナーとして扱っていないと感じた。文化の違いも、2人の共産主義の巨人の間の摩擦に貢献しました。

明白な敵意ではなく、米国との平和的な競争というフルシチョフの考えは、北京とうまく共鳴しませんでした。

真央は「フルシチョフが1958年に米国第7艦隊に対抗する中ソ対立艦隊の提案は、毛沢東によって怒って拒否された。

毛沢東はソビエト大使に「共同協力について話したいのなら、結構だ。政府、軍隊、文化的、経済的問題であり、あなたは私たちをゲリラ軍に任せることができます。」

翌年、ソビエト首相自身が中国を訪問したとき、真央は再び彼に合同艦隊とは何かを説明するように頼んだ。

彼は、ソビエトが平時に中国の地に軍隊を置くことを歓迎しなかったと述べ、「注意深く聞いてください。私たちはアメリカ人、イギリス人、日本人などを追い出すために長く懸命に努力しました。

二度と外国人を許可しません。彼らの目的のために私たちの領土を使うために。」

(チベットの精神的指導者)そして、問題の領土は「誰も住んでいないただの凍った廃棄物」であると言って、インドとの国境紛争で彼らを支援することができませんでした。

毛沢東のリーダーシップの下、中国はソビエトのモデルを打ち破り、1958年に産業と農業の生産を急速に増やすことを目的とした新しい経済プログラム「大躍進」を発表しました。

工業生産に特化したマオは、1968年までに英国の鉄鋼生産量を超えるという目標を発表しました。

人民公社としても知られる巨大な協同組合が結成されました。

1年以内に、ほぼすべての中国の村が、理想的な共産主義社会によって構想されたように人々が一緒に住み、働く、数千人の規模の働くコミュニオンに改革されました。

製鉄所を建設するのではなく、小さな「裏庭の炉」が使用されます。

しかし、その結果は悲惨なものでした。

通常の市場メカニズムは崩壊し、農業生産は遅れ、人々は粗末で売れない商品を生産することに疲れ果てました。

食糧や資源の提供と流通に政府が依存していることと、計画が不十分なためにそれらが急速に枯渇していることから、肥沃な農業地域でも飢饉が発生しました。

1960年から1961年にかけて、大躍進政策中の計画の不備、政府による政治運動、異常気象や自然災害の組み合わせにより、飢饉が蔓延しました。

そして多くの死。

死者のかなりの数は飢饉によるものではなく、当局によって殺害または過労でした。

さまざまな情報源によると、結果として生じる死者数は、2,000万人から4,000万人の間である可能性があります。

裏庭の炉で低温で製造された鋼は役に立たないことがわかった。

最後に、農民はプライバシーの欠如と彼らの生活の軍事化を嫌っていました。

GLFの最も騒々しい反対者の1人は彭徳懐国防相でした。

鵬は正統派のソビエト式の経済計画を信じており、実験に完全に反対していた。

数年前、彼は人民解放軍を設備の整ったプロの戦闘部隊に発展させることに尽力していたが、十分に革命的な兵士はどんな障害も克服できるという毛沢東の信念とは対照的だった。

内戦と韓国の間、軍隊には階級がありませんでした。

このシステムはこれらの紛争ではうまく機能しなかったため、1954年にランクシステム（ソビエトのものをモデルにした）が実装されました。

田園地帯を旅している間、鵬は大躍進政策の残骸にぞっとしました。至る所で、畑には放棄されたコミュン、台無しにされた作物、そして役に立たない銑鉄の塊が点在していました。

その後、彼はマオがこの災害の責任を負っていると非難し、今度は右派として非難され、職を辞めた。鵬はその後、文化大革命中に紅衛兵に逮捕され殴打されるまで、次の数年間は恥ずかしそうに引退して暮らしました。

彼は拷問を生き延びたが、永久的な怪我を負い、1974年に亡くなった。

真央の死後、鵬は死後、完全な名誉でリハビリされた。

すでに緊張していた中ソ関係は、ソビエトが科学技術情報の中国への流れを制限し始めた1959年に急激に悪化した。

紛争はエスカレートし、ソビエトは1960年8月までにすべての人員を中国から撤退させ、多くの建設プロジェクトを休眠状態にした。

同じ年に、ソビエトと中国は国際フォーラムで公然と論争を起こし始めました。

1969年、ソビエトと中国の軍隊が満州国境で戦闘を行った中ソ国境紛争で、両国の関係は最低点に達した。

大躍進政策の惨事は、毛沢東の国家指導者としての地位を低下させ、経済計画立案者としての地位をさらに低下させた。

真央は中央委員会内で批判を受けた。

彭徳懐ほど声高に発言した人はほとんどいなかったが、議長の大膽な実験は完全に失敗したというのが一般的なコンセンサスだった。

1960年代初頭、劉少奇大統領、鄧小平党書記長、そして周恩来首相は党の指揮を引き継ぎ、マオの共同体主義のビジョンと対立する実用的な経済政策を採用し、コミュンを解散させ、リープ前の基準にシステムを作り直そうとした。

民間の手工芸品や路上販売業者は許可され、農民は州の生産割当を満たした後、余剰作物を利益のために売ることができました。

半引退生活を送っていた真央は、時折公に出演し、さまざまな問題について意見を述べたが、1961年から1964年まで国の日常の管理にはほとんど役立たなかった。

新聞は議長についての皮肉なコメントを印刷し、彼の名前を頻繁に使用した過去形で。Deng、Zhou、Liuは全員、Maoの政策は不合理だったので、人々が集まるための空のシンボルとして彼を使用しながら物事を実行しました。

中国の新しい方向性と彼自身の権限の低下に不満を持っていたマオは、ますますイライラするようになりました。

彼は「彼らは死んだ祖先のように私の名前を呼んでいる」と不平を言った。

そして、家主と資本家は権力を取り戻していました。

ソビエト連邦でのフルシチョフの崩壊はまた、それが最終的に彼の運命になるかもしれないことをマオに心配させました。

外交政策に関する限り、米国との関係は引き続き敵対的でした。米国は、ナショナリストが本土を奪還する可能性が年々小さくなっているにもかかわらず、ナショナリストは中国の正当な政府であると依然として主張した。

台湾も国連で中国の議席を占め、1962年に真央は突然ナショナリストの侵略を恐れるようになりました。

アメリカと中国の大使はポーランドのワルシャワで会合し（アメリカには中国に大使館がなかったため）、後者はアメリカが
支援する再征服が計画されていないことを確信した。

ケネディ大統領は、中国に対する米国の政策は無意味であると感じており、2期目には関係を回復することを計画していた。

しかし、彼の暗殺、それに続くベトナム戦争と文化大革命は、次の数年間のチャンスを終わらせました。

ソビエト連邦との怒りの論争は1960年代初頭に続いた。毛沢東は、フルシチョフが物質開発に重点を置くことは人々を和らげ、革命的な精神を失うことになると主張した。

ソビエトの指導者は、「革命以外の何物でもないことを人々に約束できれば、彼らは頭をかいて『良いグーラッシュを持ったほうがいいのではないか』と言うだろう」と反論した。

1964年10月の彼の権力からの追放、中国人は関係を修復しようとしていました。

数週間後、周恩来は1917年の革命の47周年を記念して、代表団をモスクワに向かわせました。レオニード・ブレジネフとアレクセイ・コスイギンが失望して帰国した彼らはフルシチョフのより風変わりな政策のいくつかを否定するだろうが、
彼

らは時計をスターリンの時代に戻すつもりはなかったと言った。それにもかかわらず、文化大革命と中国が1966年まで1917年の革命の記念日のお祝いに代表を送り続けるまで、ソ連との関係は友好的であり続けました。

文化大革命はそれまでにマオとCCPによって、そしてお祝いで公認されていました。

その11月、あるソビエトの政治家は、「中国で今起きていることは、マルクス主義的でも、文化的でも、革命的でもない」
と述べた。

真央は、1963年に四清運動を開始したときに権力を取り戻すための運動を開始し、1965年に彼を間接的に攻撃する舞台劇を作ったある劇作家を付けました。

この劇は、愚かな皇帝（マオであると暗示される）によってオフィスから除かれた賢明な役人（彭徳懐であると暗示される）を特色にしました。毛沢東は妻の江青（貿易による女優）を文化大臣に任命し、封建的およびブルジョアジーのテーマの芸術と文学を一掃する仕事に彼女を任命しました。

このキャンペーンで議長を支援したのは林彪でした彭徳懐を1960年に国防大臣として引き継いだ。

リンは1930年代に重要な陸軍司令官であったが、健康状態が悪く、1946年から1949年に蒋介石を本土から追放したり朝鮮戦争に参加したりしなかった。

軍の階級は再び廃止されました。

「偉大なプロレタリア文化大革命」と呼ばれる新しい運動は、理論的には、前回の革命から不完全だった階級闘争の延長でした。

毛沢東と彼の支持者たちは、「リベラルなブルジョアジー」と「資本主義の道化師」「社会を支配し続け、これらのいわゆる危険な要素のいくつかは、共産党の最高層でさえ、政府内に存在していました。

この運動は、人類の歴史において前例のないものでした。

中国の共産党指導部の一部は、他の指導者グループに対して大衆の反対を結集しようとし、10年間にわたって国を悩ませた大規模な社会的、文化的、政治的、経済的混乱をもたらしました。

文化革命は、1966年8月の北京。軍の制服を着た学生は「レッドガード」と呼ばれ、国を通過して資本家と修正主義者を排除するように指示されました。

この間もなく有名になる本には、1930年代から1957年までのマオの主要な演説のすべてからの抜粋が含まれていましたが、時系列に並べられていませんでした。

文化大革命の最初の標的の中には、鄧小平と劉少奇がいました。鄧は党員を剥奪され、修正主義者と資本主義の道化師と名付けられた。

彼は自己批判を書き、田舎に追放されたが、やがて彼は再び立ち上がるだろう。劉ははるかに幸運ではなかった。

マオは彼に対して並外れた憎悪を抱いていたようで、彼は「中国のフルシチョフ」と「裏切り者、反逆者、かさぶた」として非難されました。

不幸な劉は投獄され、未治療の肺炎と糖尿病からゆっくりと無駄になりました。彼はついに1969年11月に亡くなりましたが、1974年に香港の新聞が彼の死を報じるまで、外の世界はこれに気づいていませんでした。

その間、紅衛兵は、教師、党関係者、そして権力者の誰もが攻撃される可能性があるため、中国の主要な人口密集地をひっくり返し始めました。

1966年の終わりまでに、軍は秩序を回復するために介入し始めました。

戦闘が行われ、都市に損害を与え、数千人を殺害または負傷させました。

その後、マオは軍隊を拘束しようとし、紅衛兵は暴れ回った。彼の妻は最悪の扇動者の一人であることが証明され、紅衛兵に激しい演説をしました。

ベトナム向けの武器を運ぶ列車が兵舎とともに略奪され、一部の場所では紅衛兵が派閥に分かれ、機関銃や大砲を使って路上で互いに戦った。

1967年8月までにひどくなり、人々は攻撃されないように毛沢東のリトルレッドブックを2、3部持ち運ばなければなりませんでした。

革命委員会は肅清された市政府を引き継いだが、彼らはどのように統治するかについての見当がつかず、すぐにさらに極端な若者と衝突した。

1949年以前に印刷された本は破壊され、外国人が攻撃し、北京の英国大使館が焼失した。多くの神殿や歴史的宝物が破壊されました。

周恩来は、それらを保護するためにいくつかの神殿や他の古代の建造物の周りに配置された軍隊を命じました。軍隊自体でさえ分裂し、地元の軍の首長は、過去の時代の封建的な武将のように支配したいいくつかの州の支配権を獲得しました。

若い人たちは、時には何ヶ月も続く旅で広大な田園地帯を歩いてさまよった。

1967年後半に中国が事実上の無秩序状態にあったため、マオは敗北を認めなければなりませんでした。

今では、正規軍は秩序を回復し始めました。

暴力は1968年後半まで完全に封じ込められませんでした。

しかしその時までには、多くの紅衛兵が田舎に追放され、「アナキスト」と「階級の敵」と名付けられました。

彼らの首謀者の何人かは裁判にかけられ、処刑されました。この時までには、都市には機能する政府も公共サービスもありませんでした。

病气やけがをした人は、すべての医師が追放されたために治療を受けることができず、誰かが死んだ場合に遺体を埋めることができませんでした。

通りは行き場のない若者でいっぱいでした。

誰かが死んだら遺体を埋めることはできませんでした。

通りは行き場のない若者でいっぱいでした。

誰かが死んだら遺体を埋めることはできませんでした。

通りは行き場のない若者でいっぱいでした。

そんな中、毛沢東の個人崇拜は絶大な高みに達した。

彼はいつもそれを持っていましたが、あらゆる種類の奇跡が彼の著作を読んだ人々に起因する文化大革命まで、それは過度のレベルに達しませんでした。

中国は1960年代後半にはほぼ完全に外界から切り離され、少数の国との外交関係を維持しただけでした。アメリカは帝国主義で、イギリスは植民地主義で、日本は軍国主義で、ソビエト連邦は修正主義で非難された。

共産主義の世界のほとんどは、文化大革命によって啞然とし、恐怖を感じました。

これにより、中国は共産主義国を3つのグループに分けました。

キューバ、ルーマニア、北朝鮮、および北ベトナムは、「ほとんど間違いのない社会主義者」として分類されました。

ソ連、モンゴル、ポーランド、チェコスロバキア、ブルガリア、東ドイツ、ハンガリー、ユーゴスラビアは、偽りの社会主義を追求した修正主義者として分類されました。

中国自体とアルバニアは、世界で唯一の真の社会主義国と見なされていました。

文化大革命が暴走し、毛沢東の当初の意図を超えて成長するにつれて、毛沢東の状況を支配する能力、ひいては彼の権威は衰退した。

彼の主任中尉である林彪と毛沢東の3番目の妻江青は、彼の指示のいくつかを無視しながら、毛沢東を神のような地位に栄光を与えるためにこれらの地域の混乱を操作しました。

毛沢東のリトルレッドブックは、その時代に3億5000万部以上を出版しました。

皮肉なことに、皇帝のために残された古い封建的伝統である「1万年の長寿」について、ブイアブディケーションが人々にマオを称賛するようになって以来初めて。

毛沢東の信頼を得た林彪は、毛沢東の指定後継者として国と党の両方の憲法に彼の名前を成文化させた。

第9回党大会は、1969年4月に北京で開催されました。

1956年に第8回大会に出席した代表者のほとんどがいなくなったため、文化大革命の影響は明白でした。

あらゆる種類のマオの肖像画、リトルレッドブック、その他の道具と同様に、緑の軍服が豊富にありました。

経済問題はほとんど無視され、すべての重点は真央を賛美することにあります。

林彪は正式に後継者に指名され、劉少奇は党から追放された。

紅衛兵も信用を失った。

しかし、真央は、数年後には新しい文化大革命が必要になるかもしれないと述べ、「社会主義社会はかなり長い歴史的期間を占めるため、1、2、または3つの文化大革命の後にすべてがうまくいくと誰も考えるべきではない。

過激な活動は1969年までに鎮静化したが、中国の政治情勢は複雑な派閥の線に沿って敵対し始めた。健康を害し、軍隊を事実上支配していた林彪は、パワーシェアリングの考えについてマオとますます対立するようになった。

個人的には、彼は文化大革命に熱心ではなく、それを「文化のない革命」と呼び、また、真央と周が準備していた米国との関係の回復に反対した。

彼は1971年9月に、電車で旅行中に真央を暗殺することを目的とした軍事クーデターを試みました。

上海の本部から活動しているリンは、マオが明らかにルートを迂回した後、彼の失敗を知らされました。リンはその後、妻の葉群と息子と一緒に逃げました林立果は軍用機に乗っており、1971年9月にモンゴルのオンドウルハンで墜落する前にソビエト連邦に向かう途中でした。

林の死は、過去に林を声高に称賛していた中国政府によってしっかりと覆い隠されました。

リンのクーデターと死は両方とも広範囲にわたる論争の対象であり、歴史家はまだ何が起こったのかを適切に判断することができません。

たとえば、毛沢東や周恩来首相が飛行機の撃墜を命じたという説があります。

リンの支持者たちは国を出て、主に香港に向かった。。

リンの飛行はマオに深く影響を及ぼしました、そして彼は再び相続人を明らかに主張するというジレンマを残されました。

過去の過ちなどの理由で、真央はこれ以上後継者を指名することを躊躇し、それは政治情勢をさらに曇らせただけだった。

林彪の死後、彼と故劉少奇は、国家のプロパガンダ機によって、中国のすべての病気のせいにもされる可能性のある二つの頭のモンスターに変えられました。

文化大革命の余波で、中国の思想のすべての独立は打ち切られました。

主要都市は、誰もが青、緑、白、黒、または灰色のスーツを着る厳しい場所になりました。

装飾は許可されておらず、自転車ですべて黒く塗らなければなりませんでした。

芸術と文化は、江青の革新的な演劇、映画、オペラのほんの一握りに還元されました。

毛沢東の人格カルトは、林彪の死後幾分和らげられたものの、依然として目立っていた。

1965年、中国には大規模で複雑な国家官僚機構があり、そのほとんどは1966年から1968年の混乱の間に破壊されました。

北京の政府には小さな中心核しか残っていませんでした。

それにもかかわらず、1972年のニクソン訪問中に、毛沢東は彼に「私たちは社会主義を確立し始めていません。

私たち全員」と言いました。

国務長官 ヘンリー・キッシンジャーは秘密の代表団を北京に導きました。

彼らは温かい歓迎を受けず、彼らが滞在したホテルの部屋には反米のパンフレットが備え付けられていた。しかし、彼らは周恩来に会い、ケネディ大統領が中国との関係をどのように開きたかったかについて話し、「私たちは待つつもりです。

これらの交渉が失敗した場合、最終的には別のケネディまたはニクソンがやってくるでしょう」と述べました。

彼は、米国は過去20年間、中国を奪い、孤立させてきたが、その逆ではなく、関係を確立するためのいかなるイニシアチブも米国側から来なければならないと述べた。

毛沢東は明らかに、ソビエト連邦は米国よりもはるかに危険であると判断した。

上で述べたように、文化大革命はモスクワとの関係に完全な崩壊を引き起こしました。

ソビエトの指導者レオニド・ブレジネフは「新しいヒトラー」と呼ばれ、60年代後半、両国は、アメリカ帝国主義の道具であり、誤った形態の社会主義を追求し、防衛支出を支持して国民の生活水準を無視したとして互いに非難しました。

そして核戦争で世界を爆破させようとする。米国はまた、何千マイルもの海によって中国から隔てられていましたが、ソビエト連邦は、軍隊と核ミサイルを駐留させる非常に長い国境を持っていました。

1968年のプラハの春ソビエトが社会主義の正しい道から逸脱しているどんな国にも介入する権利を主張したので、中国を深く心配しました。

しかし、1969年3月の満州国境での衝突は、中国の共産主義者が米国との関係を開くように本当に駆り立てたものでした。

ニクソン大統領は1972年2月に歴史的な北京旅行を行い、周と真央に会いました。

この旅行は共産主義の世界に混乱を引き起こした。

ソビエト連邦はそれを完全に非難することはできなかったが、彼らは明らかに米国と中国の両方が彼らに対して陰謀を企てていると感じていた。

北朝鮮はそれを社会主義の勝利と見なし（米国が中国を孤立させる試みに失敗し、合意に達することを余儀なくされたという理由で）、北朝鮮、アルバニア、キューバは中国が交渉によって間違いを犯したと感じた敵と。それはまた、指導部が避けられないと感じていたが、それでも最初に相談されなかったことに腹を立てた台湾に意気消沈した影響を及ぼした。

ニクソンの訪問で、ほとんどの反米プロパガンダは中国で姿を消した。

米国は依然として帝国主義について批判されていたが、1972年以前ほどではなかった。

林彪事件の余波で、1966年から1969年の間に批判され解雇された多くの当局者が復活した。

真央は1973年8月に突然党議会を召喚した。

第10議会は鄧小平を正式にリハビリした。

この動きは周恩来によって提案され、真央は鄧が「70%正しい、30%間違っている」と判断して同意した。

林彪も死後党から追放された。

真央はこの時期を後継者を再考する時期として利用したかった。

一方、毛沢東の妻江青は、後継者候補として毛沢東の支持を得たと思われる上海革命の主催者である王洪文、張春橋委員長、プロパガンダ作家の姚文元と非公式の急進的な政治同盟を結んだ。

その全員が第10議会によって政治局に昇格しました。

彼らは後に「四人組」と呼ばれました。

その後、四人組は、その時までには膀胱癌に罹患しており、彼の職務の多くを遂行することができなかった周恩来を標的にしようとしていました。

彼らは、プレミアを弱体化させるために、1974年に「林彪を批判し、孔子を批判する」キャンペーンを開始しました。

しかし、中国の大衆は役に立たない破壊的なキャンペーンにうんざりしていて、無関心でそれを扱いました。

不満の高まりの兆候は、1974年の終わりに広州に建てられた大きな壁のポスターであり、中国には法の支配がなく、当局は彼らの過ちについて責任を負わなかったと不満を述べた。

その後、4人の著者のうち3人が自己批判を書いた。一人は拒否し、労働改革のために田舎に追放された。

真央の健康状態は1973年までに急激に低下しました。

彼はゆっくりと視力を失い、心は最後まで鋭いままでしたが、心臓、肺、神経系のさまざまな問題を体験しました。

江青は彼が去るとすぐに国を引き継ぐことを熱望しました、しかし毛はそれを望んでいませんでした。

彼はかつて「私の妻は私を代表しておらず、彼女の見解は私の見解ではない」と言った。

より実用的なベテラン党の役人と過激派の間のイデオロギー闘争は、1975年後半に復讐をもって再び現れました。四人組は、彼らの政敵を攻撃し、彼らを一人ずつ追い払おうとしました。

人気の周恩来首相の名誉毀損の試みが失敗したことから、ギャングは、深刻な政治的挑戦であると見なした新興の鄧小平に対してメディアキャンペーンを開始しました。

1976年1月、周首相は癌で亡くなり、広範囲にわたる喪に服しました。

4月5日、北京市民は清明節で周の記憶にある天安門広場で自発的なデモを行いました、死者を称える伝統的な中国の休日。集会の本当の目的は、ギャング・オブ・フォーの抑圧的な政策に抗議することでした。

警察は、15年後にそこで起こった出来事の不気味な前兆で、群衆を広場から追い出しました。

四人組は、鄧小平が事件の原因であると重病のマオを説得することに成功しました。

その結果、鄧氏は党員を維持したものの、走資派として非難され、副首相としての地位を剥奪された。

彼は広州市に隠れ、そこで彼は四人組も毛沢東の新しく任命された後継者である華国鋒も気にならなかった地元の軍司令官によって保護されました。

Dengは、Maoがすぐになくなること、そして彼がほんの少し待つ必要があることを知っていました。

政治的嵐を経験している間、中国はまた、大規模な自然災害に見舞われました。

唐山地震は、マグニチュード7.8で公式に記録され、当局は大量の外国からの援助を拒否しました。

北京の政情不安の中で、24万人以上が亡くなり、地震の揺れは比喩的にも文字通りにも感じられました。

隕石も中国北西部に上陸し、当局は人々に、これらの出来事は天からの前兆と兆候であると昔のように信じないように言いました。

1976年（毛沢東議長の死）から1989年までの中国の期間は、しばしば鄧小平として知られています。

1976年9月、毛沢東議長の死後、中華人民共和国には、象徴的または行政的に、中央の権威者がいなくなりました。

四人組は解体されましたが、華国鋒新会長は毛沢東の政策を継続しました。

血なまぐさい権力闘争の後、鄧小平 中国経済と政府機関全体を改革するために舵を取りました。

しかし、鄧氏は広範囲にわたる政治改革に関して保守的であり、経済改革政策に起因する予期せぬ問題の組み合わせとともに、1989年の天安門広場の抗議で国は別の政治危機に見舞われた。

中国共産党の毛沢東委員長は1976年9月9日に亡くなりました。

彼の死の時、中国は政治的および経済的な泥沼にありました。

大プロレタリア文化大革命とその後の派閥の戦いは、1965年よりもはるかに貧しく、弱く、孤立した国を残しました。

有能な党の役人、官僚、知識人、専門家のスコアは、刑務所で苦しんでいたか、工場、鉱山で働いていました。

およびフィールド。多くの学校が閉鎖され、若者の世代全体が教育を受けることができませんでした。

中国の人々は彼を悼みましたが、故周恩来首相を 悼んだより感情的な方法ではありませんでした。

その間、毛沢東の指名された後継者である華国鋒が党主席に就任した。

葉剣英国防相と数人の将軍が手遅れになる前に何かをしたほうが良いと警告するまで、四人組が彼の没落を計画していることに気づいていませんでした。

フアは少し驚いたが、彼は同意し、10月にギャングが逮捕された。江青の家政婦の一人が彼女が連れ去られているときに彼女に唾を吐いたと伝えられているが、彼らの誰も抵抗を示さなかった。

四人組の終焉と逮捕は、北京や他の主要都市の街頭でのパレードを含む全国的な祝賀会を促しました。

四人組は、文化大革命の10年間の混乱の間に失敗したすべてを象徴し、一般大衆が予想していた彼らの終焉は、新しい時代の始まりを示すでしょう。

1976年の終わりから1977年の初めにかけて、州のプロパガンダ機は華国鋒を宣伝するために残業していました。

彼は毛沢東の個人的に任命された後継者であり、四人組から中国を救ったと請求された。

Huaは、とりわけ、同じヘアカットをスポーツすることによって、彼のメンターの靴を埋めようとしていました。

彼は、「毛沢東議長を称えるためには、彼の意向に従って統治すべきである」と述べた。

そして「二つのすべて」を宣言しました。

これは、「毛沢東が言ったことは何でも、毛沢東がしたことは何でもする」という意味です。

1977年から78年にかけて、政策の取り組みは景気回復を中心としていました。

学校は再開し始め、毛沢東の個人崇拜のより極端な側面は和らげられました。

彼は偉大な指導者であり思想家であると今では言われていましたが、しかし、間違いのない神ではなく、革命は彼だけでなく多くの人々の働きであったということです。

文化大革命は手に負えなくなった善意のアイデアであると言われ、Huaは数年以内に2回目のCRが必要になるかもしれないと宣言しました。

1978年4月以降、新聞はマオの引用を太字で印刷することをやめました。

核実験、ミサイル、宇宙への発射は引き続き進んでいます。

華は毛沢東主義の正統性に依存していたため、毛沢東と並んで彼自身のイメージを取り巻く個性の崇拜を続け、彼の存在を毛沢東の存在と同一視しましたが、名目上は別の時代に焦点を当てました。

明確なアイデンティティを提供するために、Huaは文字をさらに単純化することによって中国語の書記言語の彼自身の変更を試みました。Huaが辞任した後、それらの正当性に対する正式な制裁がなかったため、これらのHua時代の簡略化のいくつかは非公式に使用され続けています。

1977年初頭、国歌は革命的な推進力ではなく純粋な共産主義のイデオロギーを反映するように変更され、毛沢東思想のみを扱った歌詞が挿入されました。

元の歌詞に反映されている戦時中の愛国心とは対照的に、理想的な社会主義国を構築します。

華の想像を絶する政策は比較的支持を受けておらず、彼は政治局内での政治的支持を欠いており、目立たない指導者と見なされていた。

当時、鄧小平は「政治的過ち」のために依然として隔離されており、彼の政治復帰の問題は再びテーブルに置かれた。

鄧氏は、二人が交換した手紙の1つで、華氏のすべての政策を支持することを主張し、華氏は、鄧氏は「間違いを犯したので、当然のことながら批判を受け続けなければならない」と答えた。

四人組の逮捕は、鄧氏の「修正主義者」の考えが再浮上することを正当化するものではなかったとフア氏は述べた。

1977年3月の政治局会議で、多くのメンバーが鄧氏の復帰を支持する声を上げたが、役に立たなかった。

4月10日付けの華への手紙の中で、鄧小平は次のように書いています。

中央軍事委員会の副委員長である鄧氏は、彼の支持者である胡耀邦、趙紫陽、万里の昇格を保証した。

1978年2月、新憲法が採択されました。これは、元の1954年の文書（1957年以降は意味のある範囲で従わなかった）と短命の1975年の「ギャングオブフォー」憲法に続いて、中国が使用した3番目の文書でした。

新しいものは1954年の憲法の後にパターン化され、経済計画のための法の支配とメカニズムを回復しようとしていました。

後者に関しては、華国鋒は1950年代半ばのソビエト式経済学への復帰を望んでいた。

彼は、重工業、エネルギー、資本建設に重点を置いた10年間の計画を作成しました。

外交政策に関しては、華は1978年5月に初めて海外旅行をした。

これは朝鮮民主主義人民共和国への訪問であり、そこで彼は温かい歓迎を受け、北朝鮮の指導者である金日成に加わって米国を呼びかけた。

大韓民国からその軍隊を撤退させる。

9月、鄧小平は北朝鮮の首都平壤も訪れた。

彼は金日成の広範な人格崇拜に感銘を受けませんでした、中国でマオと一緒にこの種のことを十分に見て、平壤にある巨大な金メッキのキムの像の前に花輪を捧げることが期待されていることにも恥ずかしがりました。

鄧氏は、中国が長年にわたって北朝鮮に提供した援助金が、金氏を称える銅像や記念碑にどのように使われているかに不満を表明したと伝えられている。

彼は、彼らが彼らの人々の生活水準を改善するためにその援助を使用することでよりよく役立つかもしれないと提案しました。

その後、北朝鮮の金メッキが平壤の金像から静かに削り取られたため、北朝鮮人はメッセージを受け取ったようだった。

中国は国際的な孤立から抜け出そうとして、修正主義の裏切り者として長い間非難された後、1977年5月に北京を訪れたユーゴスラビアの指導者ヨシップ・ティトとフェンスを修理した。

1978年10月、鄧小平は来日し、福田赳夫首相と平和条約を締結し、1930年代以降の両国間の戦争状態を公式に終結させた。

日本と中国は実際に1972年に外交関係を結んだが、平和条約の交渉には6年近くかかった。

その大きな問題の1つは、アジアにおけるソビエトの「覇権」を非難する条項を含む東京に対する中国の主張である。

ソビエト連邦との関係が改善された兆候はほとんどなく、鄧小平は1950年の中ソ友好同盟条約を無効と宣言した。

ベトナムとの関係は1979年に突然敵対的になりました。

これらの2つの国はかつて同盟国でしたが、1972年に毛沢東はベトナムの首相ファムヴァンドンに中国の援助を期待するのをやめるべきであり、2つの国の間の古い歴史的確執が再び噴火するだろうと言いました。

中国はまた、カンボジアで権力を握った大量虐殺のクメールルージュ政権を支援した。1975年、ソビエトが支援するベトナム政府の敵意を刺激した。

1979年1月、ベトナムはカンボジアを侵略し、クメールルージュを権力から追い出しました。

鄧小平氏は米国訪問中に、ベトナムは「教訓を与えられなければならない」と述べた。

2月、ベトナム国境で本格的な中国の攻撃が開始された。中国は3週間後に撤退し、その目的が達成されたと宣言したが、戦争はうまくいかず、国の弱さを示した。

人民解放軍は、時代遅れで、製造が不十分で、供給不足（文化大革命によって引き起こされた混乱の副作用）、数十年前の地図、人海戦術の継続的な使用により、2万人以上の兵士を失いました。

朝鮮戦争から、そして軍隊が階級のシステムを持っていなかったという事実。さらに悪いことに、中国人はベトナムの正規軍（カンボジアにいた）とさえ交戦せず、代わりに民兵とホームガード部隊と戦った。

他方、ソビエト連邦が同盟国の援助に来ず、口頭での抗議に満足していたので、それは政治的勝利でした。

鄧小平は、モスクワの不作為に関連して、毛沢東の「裏側を突くまで虎がどう反応するかわからない」と繰り返し述べた。

中国は1979年の初めようやく米国との外交関係を完全に確立した。

これは1972年2月のニクソン大統領の訪問以来計画されていたが、ウォーターゲート事件と米国のベトナムからの撤退により遅れた。

米国は、中国を中国の唯一の政府として認めることに同意した。

台湾との外交関係は打ち切られましたが、非公式で商業的な関係は残っていました。

鄧小平は2月に米国を訪問し、カーター大統領と会談した。

一方、華国鋒は5月にヨーロッパに向かった。

彼は最初にフランスに立ち寄ったが、それは中国が中国を認めた最初の西側諸国であり、ソビエトの膨張主義と覇権に対して激しい攻撃を行ったためだと伝えられている。

後でドイツ、彼はより抑制を示し、ベルリンの壁への非常に挑発的な訪問であったであろうものを作ることに反対した。

中国の米国との外交関係の確立は、リチャード・ニクソンの1972年の訪問と同様に、共産主義の世界からの混合反応をもたらしました。

ソビエトはこれを非難することはできなかったが、彼らは彼らに対する米中の共謀について深く心配していた。

ルーマニアの指導者ニコラエチャウシェスクは、それを「世界平和とデタントのための傑出したイベント」と称賛しました。

北朝鮮はまた、キューバとアルバニアが「長期にわたる敵対関係を終わらせ、米国との外交関係を確立したことに対して私たちの兄弟の隣人」を祝福した。

北京を世界社会主義の裏切り者として公然と非難した（1972年以来、中国とのアルバニアの関係は悪化しており、新しい指導者による経済改革の発表により、小さな国はすべての接触を完全に断ち切った）。

華は引き続き指導的役割を果たしたが、鄧小平が北京に戻った瞬間、権力は衰え始めた。二人はしばらくの間共同支配を続けたが、後者は急速に権力を獲得していた。

毛沢東と周恩来が去った後、彼の経験とリーダーシップ能力を持った中国人は他に誰もいませんでした。

彼のアイデアは、華の毛沢東思想の陳腐化した宣伝とは対照的に、新鮮で魅力的でした。

Huaはすぐに、彼自身のアイデアのない空虚なパーティーハックにすぎないと見なされました。

これは1978年憲法に反映されており、プロレタリアの国際主義と継続的な革命への言及がまだ含まれていました。

技術と教育を担当する副首相として、Dengは1977年に大学入試を復活させ、文化大革命のためにこの機会を逃したほぼ世代の若者への中等後教育。彼は知識人の社会的地位を文化大革命の最下位から「社会主義建設の不可欠な部分」にまで高めた。

鄧氏は、中国共産党全国大会（第11回）の議長を務め、中国の法廷立法機関であり、近代基準に適應することで国を強化することを目的としたさまざまな分野での一連の進歩である四つの近代化の重要性を強調した。その時まで、鄧は権力を握るために最終的な政治的動きをする準備ができていた。

1978年5月11日、光明日報は、鄧氏の支持者である胡耀邦氏が調査した「真実を調べるための唯一の基準を実践する」というタイトルの記事を発表しました。

この記事は、理論と実践を統合することの重要性を強調し、マオ時代の独断的な陶醉感を非難し、実際、華の二つのすべてに対する完全な批判でした。

ポリシー。この記事は全国の多くの新聞に転載され、党機関や一般大衆の間で広く支持されました。

政府や軍の組織で全国的に議論が巻き起こり、鄧氏の斬新で実用的な姿勢がますます人気を博した。

鄧氏の考えは新鮮であるにもかかわらず、実際には彼の考えはそれほど新しいものではなく、文化大革命の直前、そしていずれにせよ、政治局が長老支配を支配し続けた1960年代半ばの状況に中国を回復させるための努力にすぎなかった。

20世紀の初めに生まれた男性によって、その全員が長征と中国の内戦に参加しました。81歳の葉剣英は、健康上の理由から1978年に国防相を辞任することを余儀なくされ、1970年代に数人の党長が亡くなったにもかかわらず、中央委員会の平均年齢はまだ70歳前後でした。

4月、鄧氏は、以前は「右派」と反革命者と呼ばれていた人々の政治的リハビリテーションを開始しました。

胡耀邦が主導したキャンペーンは、誤って告発された者を赦し、文化大革命中に粛清された多くの党の長老や知識人の評判を回復しました。

1957年の反右派運動にまでさかのぼるその他のキャンペーン。Peng Dehuai、Zhang Wentian、He Long、Tao Zhuなどの著名な政治的に不名誉な人々は、胡耀邦革命墓地で遅ればせながらランクにふさわしい葬儀を与えられました。

劉少奇は大規模な国葬を与えられました1980年5月、国が前大統領の死から11年後に追悼するよう求められたとき。この間、中国共産党はまた、国家および政府の指導者の秩序ある継承のための規則を確立した。鄧小平は、党の長老たちからの抗議にもかかわらず、定年を提案し、また、職を失った、

または解任されたCCPメンバーは、投獄されたり、身体的危害を受けたりすることができないというガイドラインが設けられた。この点で、デンは、ソビエトの指導者ニキータ・フルシチョフがスターリンのテロ状態を終わらせ、彼の政治的ライバルを処分するためにより平和的な方法を使用する慣行を確立したときに、多くを借りました。

そのために、華国鋒などのCCPの数字は、重要でないポストに降格されただけでしたが、それ以外の場合は、党員と国営年金を保持していました。

1979年、中国共産党は、文化大革命のような大規模なキャンペーンに二度と着手しないことを国に誓約しました。

一方、四人組は1980年に反革命の罪で裁判にかけられ、国家を転覆させようとし、マオを暗殺しようと企てた。

江青だけが自分自身を守ろうとし、ヒステリックな爆発とすすり泣きで手続きを繰り返して中断しました。

彼女は、「私は彼の犬でした。彼が私に噛むように言った人は誰でも、私は噛みました」と言って、マオの命令に従う以外に何もしなかったと主張しました。

そして当局に彼女の頭を切り落とすように大胆に。他の人々は終身刑を言い渡されましたが、江は死刑を宣告されました。

しかし、真央の記憶は依然として強く残っており、彼女の判決は後に終身刑になりました。

彼女は、咽喉がんの治療を受けている間、1991年に北京の病院に首を吊った。

華から鄧への権力の移行は、1978年12月、中国の歴史のターニングポイントである第11回全国党大会中央委員会の第3プレナムで確認されました。

このコースは、世界で最も人口の多い国を四つの近代化の野心的な目標に向けて動かすための党のために設定されました。

文化大革命によってもたらされた10年間の混乱の後、この会議で設定された新しい方向性は、経済発展に向けられ、階級闘争から離れることでした。

プレナムは、政治的、経済的、社会的システムの大きな変化を支持しました。

華は彼の「二つのすべて」を放棄し、完全な自己批判を提供した。階級闘争の古い焦点を置き換えることは、経済建設に焦点を合わせた新しい政策でした。

それはまた、抜本的な人事異動を開始し、鄧小平と改革プログラムの2人の主要な支持者である胡耀邦と趙紫陽の昇格に至りました。

以前の指導者の交代とは対照的に、胡耀邦は1982年まで政治局に留まったが、1人ずつ辞任した。

胡耀邦は1980年9月に国務院首相として趙紫陽に、党書記長として胡耀邦に代わった。

1982年9月の党。胡耀邦のように誰も党を支配できないようにするため、議長のポストは廃止された。

1990年代半ばまで、鄧小平は中国の事実上の最高指導者であり、中央軍事委員会の議長の正式な称号のみを保持していました。

しかし、州、政府、または党の本部ではありません。一方、李先念は1968年以来空席の中国大統領に任命された。

李先念は中央計画を信じており、この大部分が儀式的な地位への彼の任命は党の保守的な要素を和らげるための妥協案であった。

1982年の中国憲法の改正により、大統領は「代表的な」国家元首として構想され、実際の権力は中華人民共和国国務長官と党書記長の手に移されました。

二人の別々の人になること。当初の計画では、党が政策を策定し、国がそれを実行しました。

鄧の意図は権力を分割することであり、それによって真央の場合のように個性の崇拝が形成されるのを防いだ。

しかし、手順の新しい強調は、彼らが若い男性に行くべきであるという理由で公式の称号のどれも仮定しなかったDeng自身によって大いに損なわれたように見えました。

1979年以降、中国の指導部は、ほぼすべての分野でより現実的な政策に移行しました。

党は芸術家、作家、ジャーナリストにもっと批判的なアプローチを採用するよう奨励したが、党の権威に対する公然たる攻撃は許されなかった。

中国政府は文化大革命を否定した。

1979年9月の第11回全国党大会中央委員会の第4プレナムで発表された主要な文書は、共産党支配の30年間全体の「予備的評価」を与えた。プレナムでは、葉剣英党副委員長が文化大革命を「恐ろしい大惨事」であり、「[1949]以来の社会主義的大義への最も深刻な後退」と宣言した。

文化大革命に対する中国政府の非難は、中華人民共和国の建国以来の党の歴史における特定の質問に関する決議、中国共産党の第11回中央委員会の第6回総会で採択されました。

これは、「毛沢東同志は偉大なマルクス主義者であり、偉大なプロレタリア革命家、戦略家、理論家であった。

彼が「文化大革命」の間に重大な過ちを犯したことは事実であるが、彼の活動全体を判断すると、彼の貢献は中国革命は彼の過ちをはるかに上回っています。

彼の長所は一次的であり、彼の過ちは二次的です。」

]政治的イデオロギーが格下げされたため、マオの多数の彫像が全国で削除され、マルクス、エンゲルス、レー

二、およびスターリンは天安門広場から降ろされました。

1978年後半、多くの大胆な人々が北京で集会や抗議を繰り広げ始めました。

彼らは多数の壁のポスター（いわゆる「民主主義の壁」）を建てました") 文化大革命、毛沢東、四人組、華国鋒を批判する。

これらはすべて、公的な立場にほぼ一致しているため容認されたが、民主主義と公開選挙を求める声も出始めた。

当局は容認する意思があり、党は引き続き権力を握り、国民を社会主義に導くことをすぐに強調した。より大きな思想の自由は認められるが、党への忠誠と社会主義思想は依然として必要である。

それにもかかわらず、作家腐敗、党幹部が享受する特権、失業など、社会主義の下では存在し得なかったと思われるものすべてを批判し始め、2000万人の中国人が失業し、1億人が食べるのに十分な食料を持っていなかったことが公式に認められました。

中華人民共和国では、鄧小平は1989年の天安門広場の抗議と虐殺の後に正式に引退し、元上海市長の江沢民に引き継がれました。1989年の取り締まりは、世界的な中国の評判に大きな苦痛をもたらし、制裁措置がとられました。

しかし、状況は最終的には安定するでしょう。鄧氏の政治体制のチェックとバランスの考え方は、江が党、州、軍の権力を統合することで終焉を迎えた。

1990年代には健全な経済発展が見られましたが、国有企業の閉鎖と汚職と失業のレベルの上昇、および環境問題が中国を悩ませ続けました。

消費主義、犯罪、そして法輪功のような新時代の精神的宗教運動。1990年代には、一国二制度の公式の下で、香港とマカオが中国の支配下に平和的に引き渡されました。

中国はまた、海外での危機に直面したときにナショナリズムの新たな急増を見ました。

江沢民と新世代の指導者が経済的流入を鎮めようとしたため、1989年の天安門広場の抗議と虐殺に至るまでの数年間のインフレ傾向は1990年代初頭までに鎮静化した。

鄧時代の制度化された手続きと農民革命家から十分な教育を受けたプロのテクノクラートへの世代交代のおかげで、政治制度は安定しました。

大卒者の大多数は科学志向の出身であり、多くは中国国外での生活を追求していました。

滞在した人々にとって、国営の研究会社や企業は人気のある目的地でした。

天安門広場の抗議の余波で、中国は国際的なパーリア国家になり、次の3年間は厳しいものでした。

Hardlinersは政府を引き継ぎ、自由企業を抑制し始めました。

彼らはまた、毛沢東派のプロパガンダとイデオロギーのキャンペーンを復活させようとしたましたが、大衆はそれを大部分無関心で扱いました。

実際には、過去10年間の変化により、真にマオの時代のやり方に戻ることは不可能になりました。

中国共産党（CCP）の指導部は、1989年から1990年にかけての東欧における共産主義の崩壊、特にルーマニアの指導者ニコラエチャウシェスクの崩壊によってさらに当惑した。

彼の狂信的な政権は彼らが決して落ちることはないと確信していたものだったので。中国政府は、その殻の中に後退したにもかかわらず、外国の事業と投資を歓迎すると述べ続けた。ほとんどの海外の反体制派グループ

は分裂し、喧嘩し、カリスマ的な指導者を欠いていたため、その弱さと不人気のすべてにもかかわらず、CCPは深刻な反対をしていませんでした。

1990年4月、李鵬はモスクワを訪れ、肉屋として彼を非難する数十人のソビエトの抗議者に直面しました。

李はレーニンの墓に花輪を捧げ、共産主義への忠誠を示した。

彼の改革の考えは経済問題を超えて拡張されなかった、そして彼はグラスノスチとペレストロイカが中国にも適用可能であるという考えをきっぱりと却下した。

1991年8月のモスクワでのクーデターも中国の指導者を動揺させたが、中国は東欧とソビエト連邦で起こっているすべての出来事はそれらの国の内政であり、彼らを批判することは彼らの仕事ではないと公に述べた。

中国はまた、新たに独立したすべての旧ソビエト共和国に外交的承認を迅速に与えました。

しかし、CCPの内部の議論と文書は、ソビエトがミハイル・ゴルバチョフをCPSU書記長に任命し、資本主義を国に返還することを許可することによって、巨大な大失敗をしたと述べた。

さらに、中国の指導部は、ソビエト軍をマルクス・レーニン主義者と一致させることができなかったため、クーデターの試みは崩壊したと主張した。

アイデア。その結果、人民解放軍における政治教育とマルクス・レーニン主義のプロパガンダが強化された。

一方、天安門広場の影響で米国との関係は非常に悪くなり、1972年にリチャード・ニクソン大統領が中国を訪問する前から最悪の事態に達した。

特に米国議会は、できるだけ多くの経済的制裁とキャンセルを課すことに熱心だった。

ジョージHWブッシュ大統領（1970年代に中国の連絡官を務めていた）は、中米関係の楽観的な見方を支持し続け、現在の状況は一時的な上昇に過ぎないと、ビジネス、貿易、文化交流を可能な限り行った。

しかし、彼は追放されたダライ・ラマと会うことによって北京に敵対することに成功しました特に議会が中国が刑務所労働で作られた商品を輸出し、中部の不正な政権に武器を販売したとして中国を非難した後、米国の意図に対する中国の疑惑は悪化し、ワシントンが社会主義システムを弱体化させるための体系的なキャンペーンに着手したという多くの非難がなされた東部（1987年までさかのぼると、北京はイランにシルクワームの対艦ミサイルを販売したとして非難されていた）。

中米の軍事関係も1989年に突然終了し、中国へのすべての技術移転と米軍機器の販売はキャンセルされた。

1990年から91年にかけてのペルシャ湾岸危機の間、中国はイラクのクウェート侵攻を非難したが、国連の介入も批判し、それはアラブ諸国によって厳密に解決されるべき地域の問題であると述べた。

1992年の春、鄧小平は突然公の場に姿を現し、改革への信頼を回復し、毛沢東主義への後退を阻止するために中国南部のツアーに乗り出しました（旅行中、彼はCCPの「継続的な左派」を批判しました）。

この訪問は、鄧氏の最後の主要な公の場であるだけでなく、新しい指導者の方向性のテストとしても見られました。

市場志向の経済に対する鄧氏の新たな推進力は、多くの若くて改革志向の指導者がトップの地位に昇進し始めたため、今年後半の中国共産党第14回全国大会で公式の制裁を受けた。議会はまた江沢民の立場を確認した、元上海市長は、新しい「CCPリーダーシップの中核」として、江が「第3世代」のリーダーシップの人物になる道を開いた。

鄧氏と彼の支持者たちは、中国の生活水準を上げるためにはさらなる改革が必要であると主張した。

訪問後、共産党の政治局は、鄧氏の経済開放政策の支持を公に発表した。政治改革を完全に回避しているわけではありませんが、中国は一貫して経済の開放を圧倒的な優先順位に置いてきました。

鄧氏が中国共産党の指導部に、中国には米国と対峙したり地政学的なプレーヤーになるための技術的または財政的資源がなく、資本主義と民主主義が現在優勢であり、選択するが、受動的な外交政策を実践する。

近い将来、別の大規模な抗議が起こる可能性は低いですが、経済紛争による社会的不安定は、第3世代および第4世代の指導者にとってより大きな課題となっています。

しかし、政治的には、党、政府、軍の統治を分離する鄧氏の実験は、現在の政治システムの下では失敗した戦略であることが証明された。

回復期間中、江沢民は中国共産党の書記長、中国の大統領、中央軍事委員会の委員長に就任し、政治的安定を確保し、再び権力を集中させた。

鄧小平は、毛沢東や漢王朝と明王朝の創設者とともに、中国を率いる数少ない農民革命家の1人でした。

鄧氏の政策は、社会主義の枠組みの中で経済を外国投資と市場配分に開放し、自由企業と資本主義のアイデアが単一政党の政治システムの下で成長し、お互いを補うことを可能にする大胆で前例のないシステムを実践した。

彼の死後、江のリーダーシップの下、中国本土は年間平均8%のGDP成長を維持し、世界で最も高い一人当たりの経済成長率を達成し、世界で最も急速に成長している主要経済国になりました。

また、前述のように、「社会主義」措置と価格/通貨管理のおかげで、天安門事件に至るまでの数年間のインフレ特性は沈静化しました。

鄧年の手続きの制度化と農民革命家から十分な教育を受けたプロのテクノクラートへの世代交代により、政治制度は安定しました。

1990年代の初めには、中国が急速に近代的で繁栄した国になったため、社会問題も緩和されたように見えました。

たとえば、ジャーナリストのジム・ローヴァーによれば、「1979年から1994年の鄧小平改革は、いつでもどこでも人間の福祉におそらく最大の単一の改善をもたらした」。

鄧氏の改革により、何億人もの人々が貧困から抜け出しました。

しかし、改革は、主に社会的および政治的分野で未解決の多くの問題を残しました。

彼の市場改革の結果、1990年代半ばまでに、多くの国有企業（地方レベルで公的に所有されているTVEとは異なり、中央政府が所有）は不採算であり、それらを防ぐために閉鎖する必要があることが明らかになりました。

経済の永続的で持続不可能な流出である。都市化のペースが加速するにつれて、都市の失業は深刻な問題になり、都市の住宅不足は上海や広州のような主要な都市中心部で低所得のスラム街の上昇を引き起こしました。

さらに、1990年代半ばまでに、特に農業におけるDengの改革の恩恵のほとんどは順調に進んでいました。

農村部の収入は停滞しており、Dengの後継者たちは、農村部の経済成長を後押しするための新しい手段を模索していました。

さもなければ、大規模な社会的崩壊の危険を冒していました。

最後に、共産党の統治を維持しつつ、経済発展の優位性を主張するという鄧氏の政策は、その正当性について疑問を投げかけている。

中国の内外の多くのオブザーバーは、一党制がますますダイナミックで繁栄している中国社会の支配を無期限に維持できる程度に疑問を投げかけています。

中国国内の外国企業の数についても疑問が投げかけられており、政府が民間企業をその基準に合わせるために効果的に管理できなくなるまでにかかる時間。

鄧小平は1997年2月19日に亡くなりました。彼の後継者である江沢民は、革命後期のロングマーチのベテランに公式の賛辞を送りました。

鄧小平同志が生涯のエネルギーを中国国民に捧げ、中国国家の独立と解放のために不滅の偉業を成し遂げたための記憶。」彼のイデオロギーである鄧小平理論は、その後の全国人民代表大会で、憲法の公式な「指導的イデオロギー」となった。

香港は、1997年7月1日に英国に99年間リースされた後、中国の支配下に戻されました。合意復帰の支配は、一国二制度の鄧の理論を適用していました。

香港は、外交と防衛を除くすべての分野で独立を維持し、さらに50年間大きな変化を差し控えることになっていた。

マカオは1999年12月20日にポルトガルとの同様の合意の下で中国の支配に戻りました。

2つの以前の植民地は別々の法制度を維持しました。

2つの植民地の返還は、前例のない政治システムの設置とそれに関連する法的な問題、特に香港の基本法に関連する問題を意味しました。

絶え間ない議論の対象となった。本土がかつての植民地の政治制度を支配しているという問題は、国内外で多くの疑問を投げかけていました。

植民地はさらに50年間本土から経済的に独立したままであると考えられているため、香港の董建華最高行政長官の正当性と香港の民主主義のレベルについていくつかの議論が続いた。

香港はまた、地域の商業ハブとしての地位を維持するために上海と戦っています。

鄧氏は1997年に亡くなる前の数年間で健康状態が悪化した。

その間、江沢民総書記と同世代の他のメンバーは徐々に政府の日常業務の支配権を握った。この「第3世代」のリーダーシップは、「コア」で江と共同で統治されていました。江は当初、書記長の候補とは考えにくいと見なされており、単に権力の移行の人物であると信じられていました。しかし実際には、江の時代は、ライバルの党首である喬石を追放し、中国共産党の書記長、大統領、中央軍事委員会の委員長の地位を確固たるものにした後、1998年までに完全な中央軍事委員会に復帰した。

江沢民と李鵬、当時の書記長と首相の支援を受けて、政府は厳しいマクロ経済統制措置を制定した。中国は、激しい市場変動を回避するために、ローテクで重複したプロジェクトとセクター、および運輸、エネルギー、農業とセクターのプロジェクトを抹消し始めました。

農業の強化、依然として開発途上国の経済基盤、そして適度にタイトな金融政策の継続に注目が集まっています。

1998年3月、江は第9回全国人民代表大会で大統領に再選されました。李鵬首相は憲法上、そのポストから辞任することを要求された。

彼は全国人民代表大会の議長に選出された。朱鎔基副首相は、江沢民大統領から国務院副首相に指名され、李氏の後任となり、1998年3月17日の第1回NPCセッションで第9回全国人民代表大会（NPC）によって確認された。

彼は1997年9月に第15回CCP中央委員会の政治局の常任委員に再選された。

朱は一般的に人気のない李鵬と比較してよりタフでカリスマ的なリーダーであると信じられていた。

江沢民政権下の政府は中国経済のさらなる開放を認めたが、より自由で物質主義的な環境は、気功熱として知られる新時代の社会的および宗教的思考のさまざまな学校の出現に取って代わった。

法輪功（法輪功は、1992年に李洪志によって設立された法輪功）は、仏教や道教と同様の信念を持っているそのような気功の実践の1つでした。

CCPの監督下で、数年間成長することが許可されました。

1999年に学者や特定の内政党の要素による気功慣行への批判が始まった後、法輪功学習者は、実践者が「不公正な」メディア批判と見なすものを制限するために、地元の党や政府の指導者にグループアピールまたは手紙を書いた。4月に天津で「気功を実践しているティーンエイジャー」を非難する新聞記事が一連のイベントを引き起こし、最終的には1万人以上の実践者が北京中南海の敷地外で黙って抗議し、拘束された実践者の釈放を求めた。

朱鎔基首相は法輪功学習者数名と会談し、彼らの要求のすべてではないが少数に同意した。一部の政治アナリスト[誰?]は、江がこの状況を利用してCCPのリーダーシップの中核を強化していることを示唆しているが、CCPの支持者は、法輪功の継続的な広がりが見えにくい政治的不安定をもたらすと主張している。

1999年6月10日、政府は法輪功を含む「異教信仰」の取り締まりを担当する憲法外組織である「6-10事務所」を設立した。

中国の国営メディアは法輪功を非難し、それを社会の不健康な要素として非難した。7月22日、中国民事部は法輪大法研究会を違法組織として非合法化した。

協調したメディアの攻撃で。国営テレビのゴールデンタイムXinwenLianboその日は30分から3時間に延長されました。

それと多くの地方および地方自治体のテレビネットワークは、法輪功を「邪悪なカルト」と名付けました。

多くの場合、通常のプログラミングは最大1週間変更されました。

7月23日、人民日報には、運動を攻撃する全ページの社説が含まれていました。

1999年7月22日、法輪功の追放された創設者李洪志は、法輪功には特別な構造がなく、政治的目的もなく、これまでに反政府活動に関与したことがあります。

人権団体は、法輪功とその支持者は、1999年以来、数千人の開業医が拷問され、殴打され、精神医学的虐待を受け、強制労働キャンプに入れられ、さらに数万人が投獄されたと主張していると述べた。

法輪功学習者は、抗議するために中国に旅行する西側の開業医を含め、迫害と慣行の合法化の終結を訴え続けている。

中国国内の実務家は、法輪功に対する国営メディアの宣伝キャンペーンとして見ているものに抵抗し、反対し続けている[6]が、法輪功の情報筋によると、嫌がらせ、逮捕、拷問、またはさらに悪い事態に直面し続けている。

朱鎔基首相は、政治的安定を維持する中、1990年代後半の困難な時期に物事を軌道に乗せ、2000年までの20年間で中国本土の平均成長率を年率9.7%に維持しました。

東南アジアと東アジアの経済（香港と台湾の経済を含む）を不自由にした最近のアジアの金融危機も、かなり注目に値するものでした。

生存の一部は、州による経済の全体的な支配に負うところが大きかった。

アジアの金融危機と壊滅的な1998年の揚子江の洪水を背景に、中国本土のGDP2002年の最初の9か月でまだ7.9%成長し、世界的な景気減速にもかかわらず政府の7%の目標を上回りました。

公的部門の賃金上昇やその他の措置を通じて需要を刺激するための積極的な国家介入は、困難な時期に中国の経済システムに一定の強みを示した。

2000年には世界の外国直接投資（FDI）が半減しましたが、中国本土への資本の流入は10%増加しました。

グローバル企業が中国ブームを逃さないように争う中、中国のFDIは2002年に22.6%増加しました。

世界貿易は停滞し、2002年には1%増加しましたが、中国本土の貿易は2002年の最初の9か月で18%急増し、輸出が輸入を上回りました。

朱は、より保守的な指導者が手放すことを恐れていた根深い構造問題に取り組んだ。不均一な開発は、残りの国有企業と同様に大きな問題でした。

さらに、非効率な国営企業と銀行システムは、海外への不良債権と資金の喪失に悩まされていました。

緊張が変化のペースに焦点を合わせたので、経済政策に関する実質的な不一致は党のリーダーシップをもたらしました。

朱は江大統領との分裂関係に関与していたことで長い間知られていた。

中国の指導部はまた、大規模な都市の失業を誘発することなく、国有企業（SOE）の近代化と民営化に苦勞していました。

適切な教育や適切なスキルを欠いた文化大革命のために苦しんだ世代の人々は、ますます民営化された労働力の中で安定した場所を見つけることがますます困難になっていることに気づきました。

国営企業が閉鎖されて数百万人が職を失ったため、朱は失業者のために金融セーフティネットを要求した。

中国本土では、解雇された労働者や農村部の移民を吸収するために、今後5年間で1億人の新しい都市部の雇用が必要になるでしょう。

これまでのところ、一人当たりのGDP成長率が高いため、この目標を達成しています。

朱と温家宝の後援の下で、彼の最高の代理人であり後継者である州は、税収を経済に送り込み、消費者の需要を維持することによって効率を促進しながら、失業を軽減してきました。

批評家たちは、工業製品の供給過剰があり、銀行システムの不良債権のレベルを上げながら、価格と利益を押し下げていると非難している。

しかし、中国製品の内外の需要は、当面はそれらの懸念を和らげるのに十分なほど高い。

個人消費は、主に労働者の休日が増えたために増加し、押し上げられています。

朱の右腕、当時の温家宝副首相は、株式市場の規制を監督し、移住と地域の憤慨を食い止めるために、より貧しい内陸部を開発するキャンペーンを行った。

朱と文は、腐敗した役人による高額な課税から農民を保護するために農民に課税制限を設定しています。

朱は、一般の中国市民からも尊敬されており、西側の政治およびビジネスの指導者たちからも尊敬されています。

朱は、2003年3月に全国人民代表大会が開かれ、信頼できる温家宝副首相を締めくくる闘争を承認するまで首相を務めた。

彼の後継者として。彼の4代目の同僚である胡錦濤のように、ウェンの個人的な意見は、彼が彼の台本に非常に密接に固執しているため、識別するのが難しいです。

率直な意志の強い朱全忠とは異なり、同様に有能なマネージャーとしての評判を得ているウェンは、そのしなやかさと裁量で知られています。

1990年代の米国との関係の悪化は、天安門事件に完全に関連しているわけではなく、冷戦の終結を含む他の多くの要因により、米中協力の重要性や有用性が低下しました。

ペルシャ湾からハイチ、バルカン半島に至るまで、事実上の単極地政学的景観への移行と世界中の米軍の行動は、北京に落胆させられた。

1995年から96年にかけて、台湾の政治的地位の古い問題は、1970年代から80年代にかけての友好的な米中関係の間に大部分が敷物の下に流された後、最前線に戻った。北京は1987年に島が多党民主主義に移行したことで混乱し、1990年代初頭の米国との関係の崩壊後、台北への米国の武器販売は強化された。

1993年の中央軍事委員会への演説で、江沢民事務総長は、台湾が政治的独立を宣言することを防ぐことである中国の主要な戦略的懸念について話しました。

この間、中国は重要な軍事近代化プログラムを開始し、広大で軽装備の歩兵部隊による「人民戦争」という毛沢東主義の考えから脱却しました。

米国からの武器の販売は1989年に終了しましたが、中国はソビエト後のロシアで新しい武器供給業者を見つけました。

ロシアは1990年代にかなり絶望的な経済状況にあり、支払いを希望するほぼすべての人に武器を販売する用意がありました。

この間、中国共産党は、PLAを高レベルの政治的決定への直接の関与から排除するための意識的な取り組みを開始し、2017年の時点で、1997年以降、PLAの将軍は政治局常任委員会に参加していません。

1998年、PLAは経済を放棄するよう指示されました。と事業活動と防衛問題に厳密に焦点を当てています。しかし、この勅令は、多くの陸軍将校が惜しみない利益を享受し、より秘密裏に事業活動を続けたため、効果が低いことが証明されました。

人民解放軍では、軍のポストの腐敗と最高入札者への売却が続いている。

1996年に予定されている台湾の大統領選挙で、北京は台湾海峡の近くで重要な武器の増強を開始しました。

人民解放軍は1995年7月と1996年3月に、2つの主要な軍事演習を実施しました。

これは、台湾が独立派の大統領を選出しないように脅迫したためと思われます。これに応じて、米国のビル・クリントン大統領は、主要な軍事的示威活動で米国第7艦隊をこの地域に派遣しました。

中国は突然後退した。

台湾に対する積極的な姿勢は、米国と中国の隣国に対する不信感を高めたため、最終的には北京にとって自滅的であることが証明されました。

日米の軍事関係は強化され、1997年にワシントンと東京は新たな「国防協力ガイドライン」協定を締結した。

1999年、コソボ戦争中にユーゴスラビアで爆撃作戦を行っていたNATO軍がベオグラードの中国大使館を爆撃したとき、中米関係はさらに醜い不況に陥った。3人の中国人ジャーナリストが爆撃で死亡し、北京は厳しく反応

した。

大規模な反米抗議は、10年前の民主化運動以来行われた最大の公開デモで北京の街を揺るがした。

爆撃は偶発的であるという米国の声明にもかかわらず、中国はこの説明を受け入れず、その行動を激しく非難し、完全な謝罪を要求した。

公式声明の中で、当時の胡錦濤副大統領は、この行動を「野蛮な」ものとして宣言し、無知な「アメリカの覇権」の基本原則の背後にある「同じ声明で、彼は中国国民の力に関する伝統的なスローガンを掲げ、政府と江の指導部の背後に大衆の大部分を結集させた。

抗議がエスカレートするにつれて、中央政府は落ち着かせようとしてその調子を変え始めた。

ナショナリズムの波が溢れています。

1999年の米国との関係をさらに悪化させたのは、ニューメキシコ州のロスアラモス核実験室での中国のスパイ活動の告発でした。

21世紀初頭頃、中国は外国投資の増加により比較的健全な経済を維持していましたが、世界規模でより不安定な立場に直面していました。

多くの西側政府にとって人権が懸念事項となり、西側諸国のほとんどの指導者は公式訪問のたびにこの問題に言及しています。

民主進歩党の親台湾独立勢力が初めて台湾の選挙に勝利し、中国統一の交渉を制限した。

李登輝は、台湾を中国とは別の独立した組織としてラベル付けした最初の「二国間声明」を発表した。

2001年4月、米国のスパイプレーンが南シナ海で中国のジェット戦闘機と衝突し、残骸が回収されなかった中国のパイロットを殺害したときに、米国とのさらに別の衝突が発生しました。

アメリカのEP-3Eスパイプレーンは海南島に着陸することを余儀なくされ、その後中国当局は乗組員を即座に拘束し、航空機を没収しました。

2週間の交渉の後、乗組員は解放されました。

3か月後、中国は飛行機をバラバラに米国に返還した。

一方、2001年7月、中国とロシアは、経済、軍事、外交（台湾を含む）、エネルギー、生態系の分野をカバーするさまざまな分野での印ソ平和友好協力の拡大を目的とした20年間の友好協力条約に署名した。

この動きは、世界情勢における米国の支配のバランスをとるための別のステップと見なされていました。

中国とロシアはまた、両国間の完全な国境条約に合意した。

中華人民共和国（PRC）は、1990年代と2000年代に経済的に影響力を増し、新興の超大国として広く認識され始めていました。

2010年、中国は名目GDPで世界第2位の経済大国となり、2014年以降、GDP購買力平価で測定すると、以前はその地位を占めていた米国を上回り、最大の経済大国となりました。

同時に、多くの社会問題が発生し、激化しています。

江沢民CCP書記長、李鵬議会議長、朱鎔基中国首相、胡錦濤書記長と温家宝首相が率いる「第4世代」の指導者たちは、権力の座から徐々に引退し、社会不安の高まりに直面し、国を新しい方向に向かわせようとし

た。

胡温と温は、経済発展のみに焦点を当てる道から、科学的発展観のアイデアの下で全体的なバランスを作り、社会主義的で調和のとれた社会を創造することに焦点を当てました。

この過程で、農村開発や農民、その他の一般的なポピュリスト政策を支持するという前例のない姿勢の変化がありました。

Hu-Wen政府は、同じように、個人の自由、特にインターネット上の政治的コンテンツに関連する自由を制限しようとしていました。

特に2008年の夏季オリンピックに向けて、そして2008年3月にチベットで抗議した後、中国の世界的な舞台での注目度の高まりは、一般的な懐疑論と厳しい監視をもたらしました。

政府は、国の完全性をますます損なう人権侵害とさまざまな製品品質スキャンダルについて引き続き批判されており、国の安全基準についての疑惑を提起し続けています。

しかし、他の人々は、国が成し遂げた計り知れない進歩を指摘し、文化的および歴史的誤解に埋め込まれ、世界の舞台での中国の潜在的な支配の妄想に根ざしているとして、中国に対する批判を一般的に信用しません。

北京からのレトリックと融合したこれらのイデオロギーの衝突は、世界中の中国人集団に表面化する ナショナリズム（または社会主義愛国心）の激しい波をもたらしました。

2012年半ばの時点で、政府の統計によると、中国の人口の50%以上が都市部に住んでおり、中国の都市化のマイルストーンとなっています。

現代の都市居住者の大多数は、鄧小平の経済自由化政策によって始まった過去30年間の経済ブームの間に都市に移住した移民とその子供たちです。

第16回中国共産党全国大会、第17回中国共産党全国大会、第18回中国共産党全国大会
鄧小平は1980年代以来、中国共産党幹部の強制退職年齢を推進しており、1998年に公認された。2002年11月、中国共産党第16回中国共産党で、当時の中国共産党の江沢民書記長が強力な辞任を果たした。

中国共産党のPolitburo常任委員会は、Tsinghuaエンジニアリングの卒業生であるHuJintaoが率いる若い「第4世代」のリーダーシップに道を譲ります。

しかし、江は引き続き大きな影響力を行使するだろうという憶測が残った。

当時、江は新しく拡張された政治局常任委員会を積み上げた、中国の主要な権力機関であり、強硬派の3人の同盟国である。元上海長官の黄菊、元北京党長官の賈慶林、李長春がプロパガンダを支配している。

さらに、新副大統領の曾慶紅は、江の上海幫の一員であったため、堅固な江の同盟国と見なされていました。

温家宝、当時の朱鎔基首相の右腕も会議中に昇格した。

ウェンは2003年3月に首相に就任し、フーとともに胡温政権と呼ばれました。

胡温と温の両方のキャリアは、1989年の政治危機を乗り越えたという点で注目に値します。

これは、彼らの穏健な見方と、年配の支持者を怒らせたり疎外したりしないように注意を払ったことに起因します。

胡錦濤は初代党委員会書記50年以上前の革命後に共産党に加わったこと。50代の胡主席は、当時7名であった常任委員会の中で最年少の委員でした。

中国の後背地でキャリアのほとんどを過ごした地質学エンジニアの温家宝は、趙紫陽党書記長の元同盟国であったにもかかわらず、政治的立場を失うことはありませんでした。

2012年11月、胡錦濤は書記長を退任し、中国の創設後に生まれた国内初の最高指導者である習近平に引き継がれました。

一連の大規模な腐敗防止ドライブを開始しましたが、これは党内の彼の政敵、特に江沢民の2人の息子の同盟国を排除することに続発すると考えられています。

江自身は、2004年から引退したにもかかわらず、舞台裏で政治を操作していると信じられています。

江時代から残された社会的、政治的、経済的不均衡の数が多いため、胡温と温は、深刻な腐敗と唯物論の莫大な上昇からほぼ衰退した政府を継承しました。

江は影響力を行使し続けたため、胡温政権の方向性は、権力を掌握してから数年間、江時代の方向性から逸脱しなかった。

しかし、江は国民の圧力と重大な内政党および軍事反対の両方に直面し、2004年9月に中央軍事委員会委員長を辞任した。

胡温と温は表面的には江時代の政策を支持し続け、彼の3つの代表を称賛した。

理論的には、江時代の最悪の過剰のいくつかを元に戻すために段階的な変更が行われました。

変化ははるかに平等主義的な焦点を持っていて、経済改革によって取り残された中国の人口のセクターに集中し、大きな富のギャップを埋めました。

胡温と温は、これらの地域をよりよく理解するという目標を掲げて、中国の貧しい地域に多くの注目を集める旅行をしました。

胡政権と江政権の違いの程度は議論の余地がある。

中国のトップのリーダーシップの中で、中国の経済改革は継続されるべきであるという一般的なコンセンサスがまだあります。

しかし、一党制の下でより多くの資本主義的要素に向かって明確に傾いているため、政府が不明確なイデオロギーの方向性を持っていることが争われてきました。

中国の内部問題の深刻さは、その高い経済成長指標と急速に増加する外国投資の関心によってしばしば隠されています。

胡温と温の両方が、より論理的で科学的な方法で問題に対処するという政府の決意を示す基調講演を行った。

中国の指導者たちは、ニュースメディアが汚職と戦うための非常に効果的な手段になる可能性があることを理解しています。

市場の力がタブロイド報道を奨励したため、メディア管理は当初は削減されました。

それでも、政府は時折、記者を解雇したり、党の枠を超えた新聞を閉鎖したりしている。

胡錦濤のメディア改革は、西側の監視人によって保守的であると見なされてきました。

同時に、胡主席は、中国の各トップリーダーの日常業務を常に追跡するのではなく、新聞や新聞聯播などの報道機関に対して、よりポピュリストな問題に集中するよう指示を出しました。

インターネットとSMSの導入により、完全な制御を実現することは困難になっていますが、GoogleやWikipediaなどのサイトが関与する一般的なインターネット検閲は続いています。

さらに、基本法によって保護されている香港のニュースメディアは、中国でのニュース報道にますます関与するようになり、「本物のニュース」に飢えている本土の国民がますますアクセスできるようになっています。

「Weiquan運動」という用語は、1990年代に最初に登場しました。

単語wéiquán（漢字：維權）は文字通り「権利保護」を意味します。

それが意味するように、weiquan運動は、必ずしも民間人の政治的権利を具体的に保護することを意図しているわけではありません。

実際、それは初期の消費者の権利保護運動のようなものでした。

市民は、デモを組織したり、法制度やメディアの報道を通じて助けを求めたり、公開または上訴の手紙を書いたりすることによって、侵害された権利を保護し始めました。

しかし、法制度は独立しておらず、成熟していないためです。

そして中央政府が時々疑わしく、地方政府がそれに敵対しているという事実から、weiquan運動はその発展の過程で困難に直面している。

弁護士が嫌がらせを受けジャーナリストが殴打され、民間人がWeiquan運動で投獄された場合があります。

魏泉運動をより困難にしているのは、中国には「労働教養」（拼音：láodòngjiàoyǎngまたはláojiào）（漢字：劳 π 教养または劳教）と呼ばれる制度が存在することです。

裁判所に有罪判決を受けずに最長4年間拘留できる制度です。

このシステムは、一部のweiquan運動活動家に対処するためにも使用されます。

困難にもかかわらず、2003年の「拘留と返還」の廃止など、魏泉運動は依然としてある程度の進展を遂げた。

香港の主権は1997年に中華人民共和国に移管されました。

それ以来、旧英国植民地の経済は順調に進んでいます。

新しいシステムの下での民主主義の量については継続的な議論がありました。

特に、中央政府は、領土の疑似憲法、香港基本法、特に第23条、および民主的改革を取り巻く香港の法的グループおよび市民とのトラブルに遭遇しました。

この地域は防衛と外交を除くすべての分野で高度な自治権を享受していますが、北京の中央政府は香港の最高経営責任者の任命権を維持することを望んでいました。

香港議会の一部でもあります。

これらの継続的な権力は、最高経営責任者と立法府の直接選挙を要求した香港人口の特定のセグメントに不安をもたらしました。

何千人もの抗議者が7月1日の一連の行進で街頭に出た。

香港とマカオが本土と再会したことで、主な未解決の問題は台湾です。

中国政府の戦略は、連戦と宋楊の親中国統一チケットが2004年の選挙に勝つことを期待して、親台湾独立大統領の陳水扁の任期を待つことでした。

国民党の連戦議長は2005年に前例のない北京訪問を行い、共産党の胡錦濤首相と握手を交わし、中国共内戦終結以来初めての国民党主席会議となった。

陳水扁と彼の独立派民主進歩党は2004年に再選され、統一の進展を妨げた。

陳は一つの中国の政策に交渉を開始することを約束する可能性は低いが、近い将来、武力紛争を鎮圧する四つのノー、一つのないことを約束した。

同時に、陳は北京を刺激する行動を段階的に進め、徐々に別の台湾のアイデンティティを作成しようとしています。

2008年、台湾と本土の間で観光業がわずかに始まりました。

中国政府とダライ・ラマ14世は、改革派の鄧小平の要請で1978年以来連絡を取り合っており、1982年以来、いくつかの秘密または正式な会談を行ってきました。

または、現代の政治的チベットの一部ではなかった中国の領土とチベット自治区を統合し、ダライ・ラマがチベットを「西洋式の民主主義のように運営すべきである」と主張する「中国共産党の代わりに。中国政府がこれらの要求を拒否したことに応じて、ダライ・ラマは世界中を旅し、外国政府にこれらの条件を受け入れるように中国に要求するよう説得した。

この圧力と明らかな失敗の結果として分離主義者の感情を鎮めるためのチベットのリベラルな改革の結果、中国政府内の強硬派が権力を握った。

チベットの国民主義者は、「中国がいつものようにビジネスを行うのを防ぐために」チベットで激しい反対をもってエスカレートしなければならないと感じた。

1989年のデモ以来、比較的平和な時期であった2008年のチベットの不安は、確かに中国に対する国際的な反応を引き起こした。

2002年11月、広東省でSARSの流行が始まりました。

パニックを止め、起こりうる経済的損害を回避し、顔と国民の信頼を維持するために、地方当局は厳格なメディア管理を適用しました。

中央政府は故意にメディアの統制をしなかった。

国際社会はウイルスの存在について誤った情報を与えられました。

ついに2003年4月、政府はSARSに感染した「非定型肺炎」の実物大の症例を認めました。

この病気が世界中に急速に広がり、広東省を起源とする香港とベトナムで最初の感染が発生してから2か月後です。

激しい国際的圧力の後、中国当局は国際当局が状況を調査することを許可した。

4月下旬、中国政府が医療制度に内在する問題のために症例数を過少報告したことを認めたため、大きな啓示が明るみに出ました。

Zhang WenkangとBeijing Meng Xuenongの市長（それぞれJiangとHuの支持者）、およびSARS危機の報告と管理を改善するためのシステムが設定されました。

中国政府は公式の謝罪を行った。

胡錦濤書記長は、SARSデータの完全な開示を約束し、WHOの専門家がSARSの症例を調査することを許可した。

最後に、2003年7月、WHOはSARSが封じ込められていると宣言しましたが、次の冬にこの病気が再び発生する可能性があるかと警告しました。

その時までには、この病気はすでに世界中に広がっていました。

国がSARSの危機から抜け出したちょうどその時、新たな危険な流行が突然鳥インフルエンザの発生を引き起こしました。

北京は、SARSの流行中に大きな打撃を受けた評判を取り戻すために、厳格で透明性のある方針を維持してきました。

2005年10月、温家宝首相は、鳥インフルエンザの事件を隠そうとした当局者を厳しく起訴するように全国的な指令を出しました。

中国社会は一連の災害と事故、特に2003年のSARSによって目覚め、2005年には鳥インフルエンザの爆発と松華川での化学物質の流出が続きました。

最後の災害はついに国家リスク管理システムにつながりました。あらゆる緊急対応。

2019年12月、後にSARS-CoV-2と同定されたコロナウイルスの新株が武漢で発生し、湖北省は中国の他の州や他の多くの国に広がりました。

習近平の下での腐敗防止キャンペーン

中国社会は個人的な関係に大きく依存しており、それが新たな富への欲望と相まって、腐敗の深刻化を引き起こしました。

歴史家のキース・ショッパは、賄賂は汚職の手段の1つにすぎず、「横領、縁故主義、密輸、恐喝、えこひいき、キックバック、欺瞞、詐欺、公金の浪費、違法な商取引、株式操作、不動産詐欺」も含まれていると述べています。

」腐敗防止キャンペーンが繰り返されていることを考えると、不正なお金をできるだけ海外に移動することが賢明な予防策でした。

江沢民書記長などのトップリーダーは、汚職が党の存続を脅かす可能性があるかと警告した。[6]腐敗防止措置の有効性については論争が続いているが、胡温政権では腐敗が主要な焦点となっている。

汚職は中国の社会的慣習と中国の社会的関係の複雑な性質（guanxiを参照）の必然的な結果であると主張されてきましたが、一党支配と現在の政治システムは少なくとも一部、問題を悪化させます。2008年、汚職に関する大学センターの長は、過去10年間に10,000人の汚職職員が最大1,000億ドルの公的資金で中国から逃亡したと推定しました。

徐才厚は、高レベルの汚職の典型的な事例を提供しました。[8]彼はかつて政治局に座っていたときに高官を務めた。

彼は横領と賄賂の調査が始まったため、2015年に癌で亡くなりました。彼の家には膨大な量の金、宝石、現金、その他の豪華な品物があり、数台のトラックを運び去る必要がありました。

彼は、賄賂や支払いを通じて不当な軍事的昇進を受けたクライアントの長いリストを保持していました。

世論調査は、（社会のすべての部門における）汚職が人々の主な不満であることを継続的に示しています。

現在、病院、学校、警察、社会のおよび法的な機関は、賄賂、えこひいき、縁故主義の影響を常に受けています。

しかし、中国共産党は依然として腐敗した役人やビジネスマンを暴露することを独占していると主張しており、批評家は党を選択的な罰で非難している。アナリストは、当局は上級者を追跡することに消極的であり、彼らの同盟国と罰は、本物の法執行ではなく、政治的粛清の形でもたらされると述べています。

2012年以降、中国共産党の習近平書記長は、多くの高官の解任を含め、汚職を最優先の目標にした。その過程で、彼は自分の力と政敵を弱体化させる能力を大幅に高めました。

2018年3月、党が管理する全国人民代表大会は、大統領と副大統領の任期制限の撤廃、国家監督委員会の創設、共産党の中心的役割の強化など、一連の憲法改正案を可決しました。

2018年3月17日、中国の立法府は習近平を大統領に再任したが、現在は任期の制限はない。

フィナンシャルタイムズによると、Xiは、中国当局者や外国の高官との会談で憲法改正についての見解を表明した。

Xiは、中国共産党の書記長と中央軍事委員会（CMC）の議長という、任期の制限がない2つのより強力なポストを調整する必要があるという観点から決定を説明しました。

しかし、Xiは、党書記長、CMC議長、州大統領を3期以上務めるつもりかどうかについては述べなかった。

胡錦濤の真面目な世論は、中国を江時代に比べて世界情勢に対してより堅固な姿勢に導いた[要出典]。米国がイラクなどの問題地域に注目していることもあって、中国は21世紀に米国からの制限なしに外交を進めてきた。

軍事の近代化と防衛費の増加、および産業と軍事のスパイ活動とサイバーハッキングの告発は、2000年以降、中国の意図に対する懸念を高めています。

しかし、人民解放軍の近代化の取り組みは、腐敗、時代遅れの軍事装備、実用的な軍事スキルよりも政治的教え込みに引き続き重点を置いています。

2012年に政権を握って以来、習近平書記長は、莫大な金額を使い込んだと非難されたGuJunshanとXuCaihouを含む腐敗した人民解放軍将軍の一連の粛清を行ってきた。

しかし、中国のオブザーバーは、犠牲者のほとんどが習近平の政治的ライバルを支持した陸軍将校であったため、これらの粛清の多くは汚職を排除したいという願望と同じくらい政治によって動機付けられたと述べています。

人民解放軍の副兵站部長を務めていたGuJunshanは、横領、賄賂、国の資金の悪用、権力の乱用で起訴され、彼のすべての役職と党から追放された。彼は死刑判決を受けました。

河南省の自宅から大量の金、宝飾品、高級家具が没収され、すべてを運搬するために20台の大型トラックを使用しなければならなかったと報告されています。

世界の次の超大国として認識されている胡主席政府は、中国の相対的な影響力の位置を示すことに熱心でした。

中国は、北朝鮮の核開発計画からの脅威を鎮めるために、六者会合の仲介国でした。中国は北朝鮮の唯一の強力な同盟国であり、ならず者国家に食糧と石油、そして財政援助を提供し続けた。2006年10月の北朝鮮の核実験は、中国政府の政策に対する大きな恥ずかしさとして現れ、中国と金正日の間最終的な分裂の始まりを示した。

経済改革と開放の道を追求することを望まなかったの政権。2006年10月、中国が北朝鮮への食糧や石油を含む

特定の供給を遮断したことを示唆する証拠があった。

金正日は中国に対してあまり誠実な態度を示さなかったが、中国が貿易制裁を継続する場合には従うしかなかった。

中国はまた、アフリカでますます重要な役割を果たしています。

胡錦濤は2007年1月に7か国のアフリカ訪問を行い、条件のないアフリカの指導者との取引を固め、有望な財政援助を行い、慎重ではあるが多くのアフリカの指導者の支持を得た。

1996年に、中国、カザフスタン、キルギスタン、ロシア、タジキスタンで構成される上海5つのグループが作成されました。

2001年にウズベキスタンがグループに加わったとき、それは上海協力機構（SCO）に改名されました。SCOは、その目標は「加盟国間の相互信頼と良好な近隣関係の強化、政治、貿易と経済、科学技術、文化、教育、エネルギー、輸送、観光、環境保護における効果的な協力の促進」であると述べています。

およびその他の分野。地域の平和、安全および安定を維持および確保するために共同で努力し、新しい、民主的で、公正かつ合理的な政治的および経済的国際秩序の確立に向けて前進する。

西側のアナリストは、SCOがこの地域における米国とNATOの進歩に対するバランスとして役立つかもしれないと指摘している。

それを新しいワルシャワ協定と呼ぶ人さえいます。

しかしながら、SCOの指導者たちは、この組織は他のどの州に対しても向けられた同盟ではないと主張している。

いつものように、中国と世界政府は依然として一つの中国の政策を固守しています。1990年代以降、台湾と正式な外交関係を結んでいる国は20代にとどまり、台湾はいわゆる「金銭外交」によってより多くの国から外交承認を買おうとしている。

経済的に強くなった中国は、台湾の「金銭外交」を真似て、台湾との外交関係を断ち切り、中国側に揺れるように説得している。

有望な財政援助、政府高官の買収、さらにはこれらの国々での選挙キャンペーンへの参加さえも、彼らの「お金の外交」の一部になっています。

中国ではさまざまな文化的側面にいくつかの変化が見られました。新しい動きやトレンド（ハイブランドの服やストリートダンスなどの西洋社会の影響を受けたもの）が社会に現れ、新しく鍛えられ、拡大し続ける中産階級は、以前のいくつかとは異なるライフスタイルを持つ機会があります世代はにアクセスできました。これには、留学、大都市での新しい仕事の発見、高級品の購入が含まれます。

ただし、これらの機会は依然として中国の都市居住者に限定されています。

マルクス・レーニン主義・毛沢東思想は中国国家の指導原則であり続けたが、共産主義のイデオロギーは1980年代以降ますます無視され、中国がその存続を正当化する主な理由は、多党民主主義は非効率적であり、国家を急速に近代化できないという考えである。

それにもかかわらず、重慶党の薄熙来長官を含む、小規模ではあるが熱心な共産主義者の声のグループが残っている。

CCPの伝説的な「八大元老」の1人である薄一波の息子である薄熙来は、2007年までに大連市長から重慶の党書記に昇進した。

昔ながらの社会主義の理想とキャンペーンの復活、そして組織化された犯罪に対する容赦のない「ストライクハー

ド」攻撃。

彼は内陸都市の貧しい人々や恵まれない人々の間でかなりの支持を得ましたが、毛沢東主義のリバイバル主義は多くの人に受け入れられず、冷酷なハムフィストの戦術も使用されませんでした。

文化大革命時代の混乱への回帰を彷彿とさせるものを警戒する主流のCCP指導部は、ポーに対して行動することを決定し、2012年に彼と彼の妻は汚職と横領罪で裁判にかけられました。

最終的に、彼はすべての地位を剥奪され、党から追放された。

このエピソードは、中国共産党内の醜い権力闘争を露呈し、胡錦濤から習近平への今後のリーダーシップの移行に関連していると考えられていました。

現在、中国の指導者たちは、13億人の膨大な人口を管理しながら、大規模な経済改革を推進するという困難な課題に直面しています。

最近の経済改革は社会主義国のセーフティネットを弱体化させ、人々は仕事とサービスのために民間部門に目を向けることを余儀なくされました。

経済が構造変化に直面しているため、1998年以降、2500万から3000万人の州労働者が解雇されましたが、現在の成長率では年間800万人の雇用しか創出されていません。

何百万人も解雇された労働者が都市を歩き回っているため、社会秩序を維持することは難しい仕事を証明するでしょう。

労働者の抗議はそれほど頻繁ではなく、政府は通常、彼らの指導者を逮捕している間、抗議者の要求に注意を払っている。

もう1つの潜在的な危機は、エイズの出現です。これは、国連の推定では2010年に1,000万人に達する可能性があります。

おそらく数十万人が血液を売ってHIVに感染しているヘナン州では、政府はまだ始まったばかりです。

問題に注意を払ってください。国民の認識と広範な認知はまだ来ていません。

大規模な経済改革が行われている一方で、政府は、発展途上国の経済にとって社会的安定が不可欠であるとして、政治改革に遅れをとっています。

中国が迅速に民主化すると信じているアナリストはほとんどいませんが、多くのアナリストは民主化を経済改革の必然的な終わりを見なしています。

中国本土の多くは、一党支配が効果的であると考えており、政治改革の話は、政権からそれを取り除くのではなく、党の統治方法を変えることを意図しています。

近年、利用可能なポジションよりも多くの候補者がいる地方選挙が定期的に行われるようになりましたが、より高いレベルでの大きな変化について話すことはタブーのままです。

中国の石炭への依存は、すでに妥協した大気の状態を傷つけ続けています。

その主要都市のいくつかは、世界で最も汚染されている都市の1つです。

国内問題はこれまで以上に中央政府の注意を必要としている。中国における汚職に対する国民の抗議の増加は、富の格差の拡大とともに、国を安定させるための政治的行動を必要としています。

さらに、州レベルの当局は、中央政府によって定められたガイドラインから、政策の策定と実施において自らを

分離しています。

現在、中国の指導者たちは、これらの問題を解決するための経済的手段に焦点を合わせています。

彼らが政治改革を試みるかどうかは、中国の内部問題をどれだけうまく解決できるかを決定するかもしれない。

オリンピックは2008年8月に北京で開催されました。

2010年万博は上海で開催されました。

投資家や企業にとって、中国本土はまだ十分に活用されていない広大な市場です。

この点は、中国本土での携帯電話とインターネットのユーザーの急成長によって最もよく示されています。

教育的には、外国の大学とのパートナーシップと交流が学生のための新しい研究機会の創出に役立っているため、中国は前進しています。

人権問題世界のコミュニティのメンバーと中国の活動家の間で懸念が残っています。

多くの国は、中国の繁栄を確保するために、中国が国内の課題に効果的に対処することを望んでいます。

さらに、多くの国が中国と重要な貿易関係を持っているため、2015年の中国株式市場の暴落は重大であると見なされていました。

中華人民共和国（PRC）は、1990年代と2000年代に経済的に影響力を増し、新興の超大国として広く認識され始めていました。

2010年、中国は名目GDPで世界第2位の経済大国となり、2014年以降、GDP購買力平価で測定すると、以前はその地位を占めていた米国を上回り、最大の経済大国となりました。

同時に、多くの社会問題が発生し、激化しています。

江沢民CCP書記長、李鵬議会議長、朱鎔基中国首相 胡錦濤書記長と温家宝首相が率いる「第4世代」の指導者たちは、権力の座から徐々に引退し、社会不安の高まりに直面し、国を新しい方向に向かわせようとした。

胡温と温は、経済発展のみに焦点を当てる道から、科学的発展観のアイデアの下で全体的なバランスを作り、社会主義的で調和のとれた社会を創造することに焦点を当てました。

この過程で、農村開発や農民、その他の一般的なポピュリスト政策を支持するという前例のない姿勢の変化がありました。

Hu-Wen政府は、同じように、個人の自由、特にインターネット上の政治的コンテンツに関連する自由を制限しようとした。

特に2008年の夏季オリンピックに向けて、そして2008年3月にチベットで抗議した後、中国の世界的な舞台での注目度の高まりは、一般的な懐疑論と厳しい監視をもたらしました。

政府は、国の完全性をますます損なう人権侵害とさまざまな製品品質スキャンダルについて引き続き批判されており、国の安全基準についての疑惑を提起し続けています。

しかし、他の人々は、国が成し遂げた計り知れない進歩を指摘し、文化的および歴史的誤解に埋め込まれ、世界の舞台での中国の潜在的な支配の妄想に根ざしているとして、中国に対する批判を一般的に信用しません。

北京からのレトリックと融合したこれらのイデオロギーの衝突は、世界中の中国人集団に表面化するナショナリズム（または社会主義愛国心）の激しい波をもたらしました。

2012年半ばの時点で、政府の統計によると、中国の人口の50%以上が都市部に住んでおり、中国の都市化のマイルストーンとなっています。

現代の都市居住者の大多数は、鄧小平の経済自由化政策によって始まった過去30年間の経済ブームの間に都市に移住した移民とその子供たちです。

鄧小平は1980年代以来、中国共産党幹部の強制退職年齢を推進しており、1998年に公認された。

2002年11月、中国共産党第16回中国共産党で、当時の中国共産党の江沢民書記長が強力な辞任を果たした。

中国共産党のPolitburo常任委員会は、Tsinghuaエンジニアリングの卒業生であるHuJintaoが率いる若い「第4世代」のリーダーシップに道を譲ります。

しかし、江は引き続き大きな影響力を行使するだろうという憶測が残った。

当時、江は新しく拡張された政治局常任委員会を積み上げた、中国の主要な権力機関であり、強硬派の3人の同盟国である。

元上海長官の黄菊、元北京党長官の賈慶林、李長春がプロパガンダを支配している。

さらに、新副大統領の曾慶紅は、江の上海幫の一員であったため、堅固な江の同盟国と見なされていました。

温家宝、当時の朱鎔基首相の右腕も会議中に昇格した。ウェンは2003年3月に首相に就任し、フーとともに胡温政権と呼ばれました。

胡温と温の両方のキャリアは、1989年の政治危機を乗り越えたという点で注目に値します。

これは、彼らの穏健な見方と、年配の支持者を怒らせたり疎外したりしないように注意を払ったことに起因します。

胡錦濤は初代党委員会書記50年以上前の革命後に共産党に加わったこと。50代の胡主席は、当時7名であった常任委員会の中で最年少の委員でした。

中国の後背地でキャリアのほとんどを過ごした地質学エンジニアの温家宝は、趙紫陽党書記長の元同盟国であったにもかかわらず、政治的立場を失うことはありませんでした。

2012年11月、胡錦濤は書記長を退任し、中国の創設後に生まれた国内初の最高指導者である習近平に引き継がれました。

Xiは一連の大規模な腐敗防止ドライブを開始しましたが、これは党内の彼の政敵、特に江沢民の2人の息子の同盟国を排除することに続発すると考えられています。

江自身は、2004年から引退したにもかかわらず、舞台裏で政治を操作していると信じられています。

江時代から残された社会的、政治的、経済的不均衡の数が多いため、胡温と温は、深刻な腐敗と唯物論の莫大な上昇からほぼ衰退した政府を継承しました。

江は影響力を行使し続けたため、胡温政権の方向性は、権力を掌握してから数年間、江時代の方向性から逸脱しなかった。

しかし、江は国民の圧力と重大な内政党および軍事反対の両方に直面し、2004年9月に中央軍事委員会委員長を辞任した。

胡温と温は表面的には江時代の政策を支持し続け、彼の3つの代表を称賛した。理論的には、江時代の最悪の過剰のいくつかを元に戻すために段階的な変更が行われました。

変化ははるかに平等主義的な焦点を持っていて、経済改革によって取り残された中国の人口のセクターに集中し、大きな富のギャップを埋めました。

胡温と温は、これらの地域をよりよく理解するという目標を掲げて、中国の貧しい地域に多くの注目を集める旅行をしました。

胡政権と江政権の違いの程度は議論の余地がある。中国のトップのリーダーシップの中で、中国の経済改革は継続されるべきであるという一般的なコンセンサスがまだあります。

しかし、一党制の下でより多くの資本主義的要素に向かって明確に傾いているため、政府が不明確なイデオロギーの方向性を持っていることが争われてきました。

中国の内部問題の深刻さは、その高い経済成長指標と急速に増加する外国投資の関心によってしばしば隠されています。

胡温と温の両方が、より論理的で科学的方法で問題に対処するという政府の決意を示す基調講演を行った。

中国の指導者たちは、ニュースメディアが汚職と戦うための非常に効果的な手段になる可能性があることを理解しています。

市場の力がタブロイド報道を奨励したため、メディア管理は当初は削減されました。それでも、政府は時折、記者を解雇したり、党の枠を超えた新聞を閉鎖したりしている。

胡錦濤のメディア改革は、西側の監視人によって保守的であると見なされてきました。

同時に、胡主席は、中国の各トップリーダーの日常業務を常に追跡するのではなく、新聞や新聞聯播などの報道機関に対して、よりポピュリストな問題に集中するよう指示を出しました。

インターネットとSMSの導入により、完全な制御を実現することは困難になっていますが、GoogleやWikipediaなどのサイトが関与する一般的なインターネット検閲は続いています。

さらに、基本法によって保護されている香港のニュースメディアは、中国でのニュース報道にますます関与するようになり、「本物のニュース」に飢えている本土の国民がますますアクセスできるようになっています。

「Weiquan運動」という用語は、1990年代に最初に登場しました。

単語wéiquán（漢字：維權）は文字通り「権利保護」を意味します。

それが意味するように、weiquan運動は、必ずしも民間人の政治的権利を具体的に保護することを意図しているわけではありません。

実際、それは初期の消費者の権利保護運動のようなものでした。

市民は、デモを組織したり、法制度やメディアの報道を通じて助けを求めたり、公開または上訴の手紙を書いたりすることによって、侵害された権利を保護し始めました。

しかし、法制度は独立しておらず、成熟していないためです。

そして中央政府が時々疑わしく、地方政府がそれに敵対しているという事実から、weiquan運動はその発展の過程で困難に直面している。

弁護士が嫌がらせを受け、ジャーナリストが殴打され、民間人がWeiquan運動で投獄された[1]場合があ

ります。

魏泉運動をより困難にしているのは、中国には「労働教養」（拼音：láodòngjiàoyǎngまたはláojiào）（漢字：劳 π 教 π 养または劳教）と呼ばれる制度が存在することです。

裁判所に有罪判決を受けずに最長4年間拘留できる制度です。

このシステムは、一部のweiquan運動活動家に対処するためにも使用されます。

香港の主権は1997年に中華人民共和国に移管されました。

それ以来、旧英国植民地の経済は順調に進んでいます。

新しいシステムの下での民主主義の量については継続的な議論がありました。

特に、中央政府は、領土の疑似憲法、香港基本法、特に第23条、および民主的改革を取り巻く香港の法的グループおよび市民とのトラブルに遭遇しました。

この地域は防衛と外交を除くすべての分野で高度な自治権を享受していますが、北京の中央政府は香港の最高経営責任者の任命権を維持することを望んでいました。

香港議会の一部でもあります。

これらの継続的な権力は、最高経営責任者と立法府の直接選挙を要求した香港人口の特定のセグメントに不安をもたらしました。

何千人もの抗議者が7月1日の一連の行進で街頭に出た。

香港とマカオが本土と再会したことで、主な未解決の問題は台湾です。

中国政府の戦略は、連戦と宋楊の親中国統一チケットが2004年の選挙に勝つことを期待して、親台湾独立大統領の陳水扁の任期を待つことでした。

国民党の連戦議長は2005年に前例のない北京訪問を行い、共産党の胡錦濤首相と握手を交わし、中国共内戦終結以来初めての国民党主席会議となった。

陳水扁と彼の独立派民主進歩党は2004年に再選され、統一の進展を妨げた。

陳は一つの中国の政策に交渉を開始することを約束する可能性は低いですが、近い将来、武力紛争を鎮圧する四つのノー、一つのないことを約束した。

同時に、陳は北京を刺激する行動を段階的に進め、徐々に別の台湾のアイデンティティを作成しようとしています。

2008年、台湾と本土の間で観光業がわずかに始まりました。

中国政府とダライ・ラマ14世は、改革派の鄧小平の要請で1978年以来連絡を取り合っており、1982年以来、いくつかの秘密または正式な会談を行ってきました。

または、現代の政治的チベットの一部ではなかった中国の領土とチベット自治区を統合し、ダライ・ラマがチベットを「西洋式の民主主義のように運営すべきである」と主張する「中国共産党の代わりに。中国政府がこれらの要求を拒否したことに応えて、ダライ・ラマは世界中を旅し、外国政府にこれらの条件を受け入れるように中国に要求するよう説得した。

この圧力と明らかな失敗の結果として分離主義者の感情を鎮めるためのチベットのリベラルな改革の結果、中国政府内の強硬派が権力を握った。

チベットの国民主義者は、「中国がいつものようにビジネスを行うのを防ぐために」チベットで激しい反対をもってエスカレートしなければならないと感じた。

1989年のデモ以来、比較的平和な時期であった2008年のチベットの不安は、確かに中国に対する国際的な反応を引き起こした。

2002年11月、広東省でSARSの流行が始まりました。

パニックを止め、起こりうる経済的損害を回避し、顔と国民の信頼を維持するために、地方当局は厳格なメディア管理を適用しました。

中央政府は故意にメディアの統制を知らなかった。

国際社会はウイルスの存在について誤った情報を与えられました。

ついに2003年4月、政府はSARSに感染した「非定型肺炎」の実物大の症例を認めました。

この病気が世界中に急速に広がり、広東省を起源とする香港とベトナムで最初の感染が発生してから2か月後です。

激しい国際的圧力の後、中国当局は国際当局が状況を調査することを許可した。

4月下旬、中国政府が医療制度に内在する問題のために症例数を過少報告したことを認めたため、大きな啓示が明るみに出ました。

Zhang WenkangとBeijing Meng Xuenongの市長（それぞれJiangとHuの支持者）、およびSARS危機の報告と管理を改善するためのシステムが設定されました。

中国政府は公式の謝罪を行った。

胡錦濤書記長は、SARSデータの完全な開示を約束し、WHOの専門家がSARSの症例を調査することを許可した。

最後に、2003年7月、WHOはSARSが封じ込められていると宣言しましたが、次の冬にこの病気が再び発生する可能性があるかと警告しました。その時までには、この病気はすでに世界中に広がっていました。

国がSARSの危機から抜け出したちょうどその時、新たな危険な流行が突然鳥インフルエンザの発生を引き起こしました。

北京は、SARSの流行中に大きな打撃を受けた評判を取り戻すために、厳格で透明性のある方針を維持してきました。

2005年10月、温家宝首相は、鳥インフルエンザの事件を隠そうとした当局者を厳しく起訴するように全国的な指令を出しました。

中国社会は一連の災害と事故、特に2003年のSARSによって目覚め、2005年には鳥インフルエンザの爆発と松華川での化学物質の流出が続きました。

最後の災害はついに国家リスク管理システムにつながりました。あらゆる緊急対応。

2019年12月、後にSARS-CoV-2と同定されたコロナウイルスの新株が武漢で発生し、湖北省は中国の他の州や他の多くの国に広がりました。

中国社会は個人的な関係に大きく依存しており、それが新たな富への欲望と相まって、腐敗の深刻化を引き起こしました。

歴史家のキース・ショッパは、賄賂は汚職の手段の1つにすぎず、「横領、縁故主義、密輸、恐喝、えこひいき、キックバック、欺瞞、詐欺、公金の浪費、違法な商取引、株式操作、不動産詐欺」も含まれていると述べています。

腐敗防止キャンペーンが繰り返されていることを考えると、不正なお金をできるだけ海外に移動することが賢明な予防策でした。

江沢民書記長などのトップリーダーは、汚職が党の存続を脅かす可能性があるかと警告した。

腐敗防止措置の有効性については論争が続いているが、胡温政権では腐敗が主要な焦点となっている。

汚職は中国の社会的慣習と中国の社会的関係の複雑な性質（guanxiを参照）の必然的な結果であると主張されてきましたが、一党支配と現在の政治システムは少なくとも一部、問題を悪化させます。2008年、汚職に関する大学センターの長は、過去10年間に10,000人の汚職職員が最大1,000億ドルの公的資金で中国から逃亡したと推定しました。

徐才厚は、高レベルの汚職の典型的な事例を提供しました。

彼はかつて政治局に座っていたときに高官を務めた。

彼は横領と賄賂の調査が始まったため、2015年に癌で亡くなりました。

彼の家には膨大な量の金、宝石、現金、その他の豪華な品物があり、数台のトラックを運び去る必要がありました。

彼は、賄賂や支払いを通じて不当な軍事的昇進を受けたクライアントの長いリストを保持していました。

世論調査は、（社会のすべての部門における）汚職が人々の主な不満であることを継続的に示しています。

現在、病院、学校、警察、社会的および法的な機関は、賄賂、えこひいき、縁故主義の影響を常に受けています。

しかし、中国共産党は依然として腐敗した役人やビジネスマンを暴露することを独占していると主張しており、批評家は党を選別的な罰で非難している。

アナリストは、当局は上級者を追跡することに消極的であり、彼らの同盟国と罰は、本物の法執行ではなく、政治的粛清の形でもたらされると述べています。

2012年以降、中国共産党の習近平書記長は、多くの高官の解任を含め、汚職を最優先の目標にした。

その過程で、彼は自分の力と政敵を弱体化させる能力を大幅に高めました。

2018年3月、党が管理する全国人民代表大会は、大統領と副大統領の任期制限の撤廃、国家監督委員会の創設、共産党の中心的役割の強化など、一連の憲法改正案を可決しました。

2018年3月17日、中国の立法府は習近平を大統領に再任したが、現在は任期の制限はない。

フィナンシャルタイムズによると、Xiは、中国当局者や外国の高官との会談で憲法改正についての見解を表明した。Xiは、中国共産党の書記長と中央軍事委員会（CMC）の議長という、任期の制限がない2つより強力なポストを調整する必要があるという観点から決定を説明しました。

しかし、Xiは、党書記長、CMC議長、州大統領を3期以上務めるつもりかどうかについては述べなかった。

胡錦濤の真面目な世論は、中国を江時代に比べて世界情勢に対してより堅固な姿勢に導いた。

米国がイラクなどの問題地域に注目していることもあって、中国は21世紀に米国からの制限なしに外交を進めてきた。

軍事の近代化と防衛費の増加、および産業と軍事のスパイ活動とサイバーハッキングの告発は、2000年以降、中国の意図に対する懸念を高めています。

しかし、人民解放軍の近代化の取り組みは、腐敗、時代遅れの軍事装備、実用的な軍事スキルよりも政治的教え込みに引き続き重点を置いています。

2012年に政権を握って以来、習近平書記長は、莫大な金額を使い込んだと非難されたGuJunshanとXu Caihouを含む腐敗した人民解放軍将軍の一連の粛清を行ってきた。

しかし、中国のオブザーバーは、犠牲者のほとんどが習近平の政治的ライバルを支持した陸軍将校であったため、これらの粛清の多くは汚職を排除したいという願望と同じくらい政治によって動機付けられたと述べています。

人民解放軍の副兵站部長を務めていたGuJunshanは、横領、賄賂、国の資金の悪用、権力の乱用で起訴され、彼のすべての役職と党から追放された。

彼は死刑判決を受けました。

河南省の自宅から大量の金、宝飾品、高級家具が没収され、すべてを運搬するために20台の大型トラックを使用しなければならなかったと報告されています。

世界の次の超大国として認識されている胡主席政府は、中国の相対的な影響力の位置を示すことに熱心でした。

中国は、北朝鮮の核開発計画からの脅威を鎮めるために、六者会合の仲介国でした。

中国は北朝鮮の唯一の強力な同盟国であり、ならず者国家に食糧と石油、そして財政援助を提供し続けた。

2006年10月の北朝鮮の核実験は、中国政府の政策に対する大きな恥ずかしさとして現れ、中国と金正日間の最終的な分裂の始まりを示した。

経済改革と開放の道を追求することを望まなかったの政権。2006年10月、中国が北朝鮮への食糧や石油を含む特定の供給を遮断したことを示唆する証拠があった。

金正日は中国に対してあまり誠実な態度を示さなかったが、中国が貿易制裁を継続する場合には従うしかなかった。

中国はまた、アフリカでますます重要な役割を果たしています。

胡錦濤は2007年1月に7か国のアフリカ訪問を行い、条件のないアフリカの指導者との取引を固め、有望な財政援助を行い、慎重ではあるが多くのアフリカの指導者の支持を得た。

1996年に、中国、カザフスタン、キルギスタン、ロシア、タジキスタンで構成される上海5つのグループが作成されました。

2001年にウズベキスタンがグループに加わったとき、それは上海協力機構（SCO）に改名されました。SCOは、その目標は「加盟国間の相互信頼と良好な近隣関係の強化、政治、貿易と経済、科学技術、文化、教育、エネルギー、輸送、観光、環境保護における効果的な協力の促進」であると述べています。

およびその他の分野。地域の平和、安全および安定を維持および確保するために共同で努力し、新しい、民主的で、公正かつ合理的な政治的および経済的国際秩序の確立に向けて前進する。

西側のアナリストは、SCOがこの地域における米国とNATOの進歩に対するバランスとして役立つかもしれないと指摘している。それを新しいワルシャワ協定と呼ぶ人さえいます。

しかしながら、SCOの指導者たちは、この組織は他のどの州に対しても向けられた同盟ではないと主張している。

いつものように、中国と世界政府は依然として一つの中国の政策を固守しています。

1990年代以降、台湾と正式な外交関係を結んでいる国は20代にとどまり、台湾はいわゆる「金銭外交」によってより多くの国から外交承認を買おうとしている。

経済的に強くなった中国は、台湾の「金銭外交」を真似て、台湾との外交関係を断ち切り、中国側に揺れるように説得している。

有望な財政援助、政府高官の買収、さらにはこれらの国々での選挙キャンペーンへの参加さえも、彼らの「お金の外交」の一部になっています。

中国ではさまざまな文化的側面にいくつかの変化が見られました。

新しい動きやトレンド（ハイブランドの服やストリートダンスなどの西洋社会の影響を受けたもの）が社会に現れ、新しく鍛えられ、拡大し続ける中産階級は、以前のいくつかとは異なるライフスタイルを持つ機会があります世代はにアクセスできました。

これには、留学、大都市での新しい仕事の発見、高級品の購入が含まれます。

ただし、これらの機会は依然として中国の都市居住者に限定されています。

マルクス・レーニン主義・毛沢東思想は中国国家の指導原則であり続けたが、共産主義のイデオロギーは1980年代以降ますます無視され、中国がその存続を正当化する主な理由は、多党民主主義は非効率的であり、国家を急速に近代化できないという考えである。

それにもかかわらず、重慶党の薄熙来長官を含む、小規模ではあるが熱心な共産主義者の声のグループが残っている。

CCPの伝説的な「八大元老」の1人である薄一波の息子である薄熙来は、2007年までに大連市長から重慶の党書記に昇進した。昔ながらの社会主義の理想とキャンペーンの復活、そして組織化された犯罪に対する容赦のない「ストライクハード」攻撃。彼は内陸都市の貧しい人々や恵まれない人々の間でかなりの支持を得ましたが、毛沢東主義のリバイバル主義は多くの人に受け入れられず、冷酷なハムフィストの戦術も使用されませんでした。

文化大革命時代の混乱への回帰を彷彿とさせるものを警戒する主流のCCP指導部は、ポーに対して行動することを決定し、2012年に彼と彼の妻は汚職と横領罪で裁判にかけられました。

最終的に、彼はすべての地位を剥奪され、党から追放された。このエピソードは、中国共産党内の醜い権力闘争を露呈し、胡錦濤から習近平への今後のリーダーシップの移行に関連していると考えられていました。

現在、中国の指導者たちは、13億人の膨大な人口を管理しながら、大規模な経済改革を推進するという困難な課題に直面しています。

最近の経済改革は社会主義国のセーフティネットを弱体化させ、人々は仕事とサービスのために民

間部門に目を向けることを余儀なくされました。

経済が構造変化に直面しているため、1998年以降、2500万から3000万人の州労働者が解雇されましたが、現在の成長率では年間800万人の雇用しか創出されていません。

何百万人も解雇された労働者が都市を歩き回っているのです、社会秩序を維持することは難しい仕事を証明するでしょう。

労働者の抗議はそれほど頻繁ではなく、政府は通常、彼らの指導者を逮捕している間、抗議者の要求に注意を払っている。

もう1つの潜在的な危機は、エイズの出現です。

これは、国連の推定では2010年に1,000万人に達する可能性があります。

おそらく数十万人が血液を売ってHIVに感染しているヘナン州では、政府はまだ始まったばかりです。

問題に注意を払ってください。国民の認識と広範な認知はまだ来ていません。 [23]

大規模な経済改革が行われている一方で、政府は、発展途上国の経済にとって社会的安定が不可欠であるとして、政治改革に遅れをとっています。

中国が迅速に民主化すると信じているアナリストはほとんどいませんが、多くのアナリストは民主化を経済改革の必然的な終わりを見なしています。

中国本土の多くは、一党支配が効果的であると考えており、政治改革の話は、政権からそれを取り除くのではなく、党の統治方法を変えることを意図しています。

近年、利用可能なポジションよりも多くの候補者がいる地方選挙が定期的に行われるようになりましたが、より高いレベルでの大きな変化について話すことはタブーのままです。

中国の石炭への依存は、すでに妥協した大気の水質を傷つけ続けています。

その主要都市のいくつかは、世界で最も汚染されている都市の1つです。

国内問題はこれまで以上に中央政府の注意を必要としている。

中国における汚職に対する国民の抗議の増加は、富の格差の拡大とともに、国を安定させるための政治的行動を必要としています。

さらに、州レベルの当局は、中央政府によって定められたガイドラインから、政策の策定と実施において自らを分離しています。

現在、中国の指導者たちは、これらの問題を解決するための経済的手段に焦点を合わせています。

彼らが政治改革を試みるかどうかは、中国の内部問題をどれだけうまく解決できるかを決定するかもしれない。

オリンピックは2008年8月に北京で開催されました。2010年万博は上海で開催されました。

投資家や企業にとって、中国本土はまだ十分に活用されていない広大な市場です。

この点は、中国本土での携帯電話とインターネットのユーザーの急成長によって最もよく示されています。

教育的には、外国の大学とのパートナーシップと交流が学生のための新しい研究機会の創出に役立つ

ているため、中国は前進しています。

人権問題世界のコミュニティのメンバーと中国の活動家の間で懸念が残っています。

多くの国は、中国の繁栄を確保するために、中国が国内の課題に効果的に対処することを望んでいます。

さらに、多くの国が中国と重要な貿易関係を持っているため、2015年の中国株式市場の暴落は重大であると見なされていました。